



民法財産取得編

大隈

1273



114
A2663
1



民法財產取得編目錄	第	
總則	第	一至六
第一章 先占	第	七至八
第二章 添附	第	九至十三
第一節 不動產上之添附	第	九至十
第二節 動產上之添附	第	十一至十三
第三章 買賣	第	十四至四十四
第一節 買賣ノ通則	第	十四至二十
第一款 買賣ノ性質及ヒ成	第	十四至二十
第二款 賣渡又ハ買受ノ無	第	二十一至二十四
第三款 賣渡スヲ得サル	第	二十五至三十五

大正十一年四月
贈月

第二款 終身年金權ノ契約

ノ効力

第三款 終身年金權ノ消滅

第八章 消費貸借及ヒ無期年金

權

第一節 消費貸借

第二節 無期年金權ノ契約

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質

第二節 使用貸借ヨリ生シ又

ハ其貸借ニ際シテ生スル義

務

第十章 寄託及ヒ保管

自第百七十一條
至第百七十五條

自第百七十八條
至第百七十九條

自第百九十四條
至第百九十五條

自第百九十四條
至第百九十五條

自第百九十五條
至第百九十六條

自第百九十五條
至第百九十六條

自第百九十七條
至第百九十八條

自第百九十八條
至第百九十九條

第一節 寄託

第一款 任意寄託

第二款 急迫寄託及ヒ旅店

寄託

第二節 保管

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二節 代理人ノ義務

第三節 委任者ノ義務

第四節 代理ノ終了

第十二章 雇傭及仕事請負ノ契

約

第一節 雇傭契約

自第百二十一條
至第百二十七條

自第百二十一條
至第百二十二條

自第百二十九條
至第百三十九條

自第百二十九條
至第百三十九條

自第百三十九條
至第百四十七條

自第百四十七條
至第百五十五條

自第百五十五條
至第百五十九條

自第百六十五條
至第百六十六條

自第百六十六條
至第百六十六條

第二節 習業契約
 第三節 仕事請負契約

自第百六十七條
 至第百七十五條
 自第百七十四條
 至第百八十五條

正		誤	
丁數	行數	條數	誤
七 十八	一 二	第二十八條 第七十三條	夕 財產
裏表			有 賣主

民法
 財産取得編
 第一章 先占

第一條 物上及び對人ノ權利ハ財産編ニ規定シタル原因ニ由ル外尙ホ本編ノ規定ニ從ヒ之ヲ取得スルヲ得

第二章 先占
 第二條 先占ハ無主ノ動產物ヲ已レノ所有ト爲ス意思ヲ以テ最先ノ占有ヲ爲スニ因リテ其所有權ヲ取得スル方法ナリ

第三條 狩獵、捕漁ノ權利ノ行使及ヒ漂流物、遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第四條 戰時ニ於ケル海陸ノ掠奪物ニ付テモ亦同シ
 遺棄ヲ證スル責ニ任ス

遺棄ヲ證スル責ニ任ス
 遺棄物ヲ先占シタリト主張スル者ハ原所有者ノ任意

	一	二		
	三	四	五	六
	七	八	九	十
	十一	十二	十三	十四
	十五	十六	十七	十八
	十九	二十	二十一	二十二
	二十三	二十四	二十五	二十六
	二十七	二十八	二十九	三十
	三十一	三十二	三十三	三十四
	三十五	三十六	三十七	三十八
	三十九	四十	四十一	四十二
	四十三	四十四	四十五	四十六
	四十七	四十八	四十九	五十
	五十一	五十二	五十三	五十四
	五十五	五十六	五十七	五十八
	五十九	六十	六十一	六十二
	六十三	六十四	六十五	六十六
	六十七	六十八	六十九	七十
	七十一	七十二	七十三	七十四
	七十五	七十六	七十七	七十八
	七十九	八十	八十一	八十二
	八十三	八十四	八十五	八十六
	八十七	八十八	八十九	九十
	九十一	九十二	九十三	九十四
	九十五	九十六	九十七	九十八
	九十九	一百		

第五條 他人ニ屬スル物ノ中ニ於テ偶然ニ發見シタル埋藏物ハ所有者ノ知レサルキハ其一半ヲ發見者ニ付與ス
埋藏物カ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者ノ權利ハ次章ノ規定ニ從フ

第六條 埋藏物ノ原所有者ハ發見後三ヶ年間ニ非サレハ前條ノ付與ニ反シテ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ス
此期間ハ原所有者カ埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者タルニ於テハ其發見ヲ知リタル後一ヶ年間ニ之ヲ短縮ス

然レモ埋藏物ノ占有者カ惡意ナルキハ通常ノ時効ヲ適用ス

第二章 添附

第七條 動産ト不動産トヲ問ハス或ル物ノ所有者ハ其物ニ附從トシテ合シタル物ヲ下ノ區別ニ從ヒテ取得ス

第八條 第一節 不動産上ノ添附
第八條 建築其他ノ工作及植物ハ總テ其附着セル土地又ハ建物ノ所有者カ自費ニテ之ヲ築造シ又ハ栽植シタリトシテ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルキハ此限ニ在ラス
右建築其他ノ工作物ノ所有權ハ土地又ハ建物ノ所有者ニ屬ス但權原又ハ時効ニ因リテ第三者ノ得タル權利ヲ妨ケス工植物ニ關スル場合ハ第十條ノ規定ニ從フ
第九條 土地又ハ建物ノ所有者カ他人ニ屬スル材料ヲ以テ建築其他ノ工作ヲ爲シタルキハ其工作物ヲ毀壞シテ材料ヲ返還スル強要ヲ受ケス又材料ノ本主ニ其除去ヲ強要スルコトヲ得ス
然レモ右ノ所有者ハ財産編第三百八十五條ノ規定ニ從ヒテ材料ノ本主ニ償金ヲ拂フノ責ニ任ス

第十條 他人ニ屬スル草木ノ栽植ニ付テハ其栽植ヲ爲シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ一年内ニ其草木ヲ拔取り且之ヲ返還スル強要ヲ受ク尙ホ損害アルキハ之ヲ賠償ス右草木ノ所有者カ其返還ヲ欲セス又ハ栽植ノ時ヨリ一个年ヲ經過シタルキハ其所有者ハ償金ヲ受ク

第十一條 他人ノ土地又ハ建物ノ善意ノ占有者ニシテ其土地又ハ建物ニ自己ノ材料又ハ草木ヲ以テ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者ハ所有者ヨリ不動産回復ノ請求ヲ受クルニ當リ其工作物又ハ草木ヲ取拂フ責ニ任セス所有者ハ其選擇ヲ以テ占有者ニ材料及ヒ手間賃ヲ拂ヒ又ハ不動産ノ増價額ヲ拂フ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者カ惡意ノ占有者タリシキハ所有者ハ工作物及ヒ草木ヲ除去シテ場所ヲ舊狀ニ復セシメ且損害アルキハ之ヲ賠償セシムルヲ得又所有者ハ前項ノ規定

ニ從ヒ占有者ニ償金ヲ拂ヒテ右ノ工作物及ヒ草木ヲ保存スルヲ得

第十二條 舟筏ノ通ス可キト否トヲ問ハス河川ノ寄洲、中洲、干潟ノ所有權又ハ水路ノ變換ニ因リ生スル浸沒地及ヒ舊川床ノ所有權ノ歸屬ハ別ニ之ヲ定ム但海ノ干潟ニ付テハ財産編

第二十三條ノ規定ニ從フ

第十三條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ヲ以テ誘引シ又ハ停留セラレタルニ非スシテ他ノ池又ハ鳩舎ニ移リタルキ其所有者カ自己ノ所有ヲ證シテ一週日間ニ之ヲ要求セサレハ其魚又ハ鳩ハ現在ノ土地ノ所有者ニ屬ス

群ヲ爲シテ他ニ移轉シタル蜜蜂ニ付テハ一週日間之ヲ追求スルヲ得

飼馴サレタルモ逃ケ易キ野栖ノ禽獸ニ付テハ善意ニテ之ヲ

停留シタル者ニ對シ一個月間其回復ヲ爲スヲ得

第二節 動産上ノ添附

第十四條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ動産物カ所有者ノ意ニ非スシテ第三者ニ因リテ附合セラレ其各物共ニ著シキ毀損又ハ減價ヲ受ケスシテ容易ニ分タル可キキハ所有者ノ各自ハ其分離ヲ請求スルヲ得但損害アルキハ附合ヲ爲シタル者之ヲ賠償ス

附合ノ爲メニセル物ノ變様ハ之ヲ毀損ト看做ス

第十五條 二箇ノ物カ分ツ可カラサルカ又ハ之ヲ分ツカ爲メ著シキ毀損減價ヲ爲シ若クハ過分ノ費用時日ヲ要スルキハ孰レノ所有者モ分離ヲ請求スルヲ得スシテ其物ハ附合ノ儘ニテ主タル物ノ所有者ニ歸屬ス但此所有者ハ從タル物ノ所有者ニ損害ヲ加ヘテ已レチ利シタル限度ニ應シ賠償ヲ負

擔ス 或ル物ノ便益裝飾又ハ補完ノ爲メニ附合セラレタル物ハ之

ヲ從タル物ト看做ス主從ノ區別ニ付キ疑アルキハ價格ノ低

キ物ヲ以テ從タル物トス 此他ノ場合ニ於ケル物ノ主從ノ區別ハ之ヲ裁判所ノ審定ニ

委ス 第十六條 附合カ主タル物ノ所有者ノ過失又ハ詐欺ニ因リテ

成リ前條ノ規定ニ從ヒテ其分離ヲ爲ス可カラサルキハ從タル物ノ所有者ノ受ク可キ賠償ハ財産編第三百七十條及ヒ第

三百八十五條ニ依リテ其額ヲ定ム 從タル物ノ所有者カ附合ヲ爲シタルキハ主タル物ノ所有者

ノ利益ノ限度ニ應シテノミ其損失ノ賠償ヲ受ク 第十七條 不都合ナシニハ物ヲ分離スルヲ得サル右同一ノ

場合ニ於テ其性質、品質又ハ價格ニ因ルモ主從ノ區別ヲ爲シ
難キキハ其物ハ平等ノ權利ニテ各所有者之ヲ共有ス但過失
又ハ惡意アル者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ妨ケス

第十八條 前數條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル流動物、固形
物又ハ金屬ノ混和ニモ亦之ヲ適用ス

然レモ分離スルコトヲ得サル物カ其性質及ヒ品質ノ同シキニ
因リテ共有ト爲ル可キキハ各自ノ權利ハ己レヨリ出テタル
物ノ數量ノ割合ニ應ス

第十九條 附合又ハ混和カ所有者ノ一人ノ所爲ヨリ生スル場
合ニ於テハ他ノ所有者ハ專屬ノ所有權ヲモ共有權ヲモ承諾
スル責ニ任セス添附ヲ爲シタル者ニ對シテ同品質ノ物又ハ
其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 或人カ他人ノ物料ヲ以テ新ナル用方ノ物ヲ作りタ

ルキハ物料ノ所有者ハ手間賃ヲ拂フテ其物ノ所有權ヲ要求
スルコトヲ得

然レモ手間賃カ著シク物料ノ價額ヲ超ユルキハ新ナル物ノ
所有權ハ製作者ニ屬ス但製作者ハ物料ノ所有者ニ賠償スル
コトヲ要ス

製作者カ物料ノ幾分ヲ供シタルキハ其物料ノ價額ハ優先權
ヲ定ムル爲メ之ヲ手間賃ニ合算ス

所有者ノ承諾ナクシテ物料ヲ用井タルキハ其所有者ハ常ニ
自己ノ優先權ヲ拋棄シテ同品質、同數量ノ物又ハ其代價ヲ要
求スルコトヲ得

第二十一條 附合、混和又ハ製作カ所有者ノ明示又ハ默示ノ承
諾ヲ以テ成ルキハ所有權ハ合意ニ從ヒテ之ヲ定ム若シ疑ア
ルニ於テハ分離カ容易ナリト雖モ其分離ヲ要求スルコトヲ得

ス且優先權及ヒ共有權ニ關スル前數條ノ規定ヲ適用ス
第二十二條 前數條ニ定メサル動產物添附ノ場合ニ於テハ裁
判所ハ前數條ノ規定ノ援引ス可キハ之ヲ援引シ且條理ニ基
キテ所有權及ヒ賠償ノ論點ヲ審定ス
第二十三條 第五條ニ從ヒテ發見者ニ屬セサル埋藏物ノ部分
ハ添附ニ因リテ其埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ動產又ハ
不動產ノ所有者ニ屬ス
右動產又ハ不動產ノ所有者自身ニテ意外ニ發見シタル埋藏
物ハ一半ハ先占ニ因リ一半ハ添附ニ因リテ全部其所有者ニ
屬ス
所有者ノ所爲又ハ其指圖ヲ受ケ若クハ受ケサル第三者ノ所
爲ニテ特ニ搜索ヲ爲スニ因リテ發見シタル埋藏物ハ添附ヲ
以テ全部所有者ニ屬ス

原所有者ノ回復ニ對シ埋藏物ノ發見者ノ爲メ第六條ヲ以テ
定メタル時効ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三章 賣買

第一節 賣買ノ通則

第一款 賣買ノ性質及ヒ成立

第二十四條 賣買ハ當事者ノ一方カ物ノ所有權又ハ其支分權
ヲ移轉シ又ハ移轉スル義務ヲ負擔シ他ノ一方又ハ第三者カ
其定マリタル代金ノ辨濟ヲ負擔スル契約ナリ

賣買契約ハ下ノ規定ニ從フ外有償且雙務ナル契約ノ一般ノ
規則ニ從フ

第二十五條 賣買ハ當事者ノ承諾ノミヲ以テ完全ニ成立ス
然レモ當事者ハ賣買ノ成立ヲ各自ノ證據ニ供スル公正證書
又ハ私署證書ノ錄製ノ條件ニ繋カラシムルヲ得

第二十六條 賣渡又ハ買受ノ一方ノミノ豫約アルキハ要約者
カ財産編第三百八條ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ契約ノ取結ヲ
要求スル時ヨリ諾約者ハ其豫約ニ於テ定メタル代價及ヒ條
件ヲ以テ契約ヲ取結フ義務ヲ負擔ス

第二十七條 諾約者カ契約ヲ取結フヲ拒ムキハ裁判所ハ賣
買カ成立シタリトノ判決ヲ爲ス

不動産權ノ賣買ニ關スルキハ其判決ヲ登記ス

賣渡ノ豫約ヲ登記シタルキハ右判決ハ登記ニ之ヲ附記ス其

登記ハ賣主ノ承繼人ニ對シ既往ニ遡リテ効力ヲ生ス

第二十八條 賣渡及ヒ買受ノ相互ノ豫約アルキハ當事者ノ一
方ハ前條ニ從ヒ他ノ一方ニ對シテ契約ノ取結ヲ強要スルコ
トヲ得

裁判所ハ此場合ニ於テ當事者ノ意思ヲ解釋シ賣買ノ豫約カ

即時ノ賣買ノ効ヲ有スルモノト判決シ又期間ノ定メタルキ
ハ其期間ハ履行ノミニ適用セラルモノト判決スルコトヲ得

第二十九條 前四條ニ從ヒ當事者ノ雙方又ハ一方カ日後賣渡
及ヒ買受ノ契約ヲ取結フ義務又ハ單ニ證書ヲ錄製スル義務
ヲ負擔シタル場合ニ於テ豫約ノ擔保トシテ手附ヲ授受シタ
ルキハ契約ヲ取結フ又ハ證書ヲ錄製スルコトヲ拒ム一方ハ
其與ヘタル手附ヲ失ヒ又ハ其受ケタル手附ヲ二倍ニシテ還
償ス

第三十條 即時ノ賣買ニ於テハ手附ハ之ヲ與ヘタル者ノ利益
ノ爲メニノミ解約ノ方法ト爲ル但買主ノ與ヘタル手附カ金
錢ナルキハ其地ノ慣習ニテ之ニ解約ノ性質ヲ付スル場合ノ
外合意ニテ此性質ヲ明示スルコトヲ要ス
契約ノ全部又ハ一分ノ履行アリタルキハ如何ナル場合ニ於

テモ解約ヲ爲スヲ得ス

第三十一條 試驗ニテ爲ス賣買ハ事情ニ隨ヒ買主ノ適意ノ停止條件又ハ拒絕ノ解除條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト看做スヲ得

試味ノ慣習アル日用品ノ賣買ハ適意ノ停止條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第三十二條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ買主カ已レニ屬スル權能ノ行使ニ付キ期限ヲ定メサルキハ短キ期間ニ於テ決答ス可キ催告ヲ受ク若シ其決答ヲ爲サスシテ賣渡物ノ引渡ヲ受ケタルキハ買主ハ承諾シタリトノ推定ヲ受ケ反對ノ場合ニ於テハ拒絕シタリトノ推定ヲ受ク

第三十三條 賣買ノ代價ハ全額ヲ以テセサルモ其目安ヲ契約ニ定ムルヲ要ス

又其代價ハ或ハ同種類ノ商品ノ現時又ハ近日ノ市價ニ委テ或ハ契約ヲ以テ指定シタル第三者ノ評價ニ委ヌルヲ得
右評價カ錯誤ニ出テタルカ又ハ明カニ公平ニ反スルキハ其評價ニ異議ヲ爲スヲ得但其異議ハ損失ヲ受ケタリト主張スル一方カ評價ヲ知リタル時直ニ之ヲ爲スヲ要ス

第三百十二條及七百四十四條ノ規定ヲ適用ス

當事者ハ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ヲ以テ代價ヲ定ムルヲ得然レモ第三者ハ元本ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ定ムルヲ得ス但當事者カ明示ニテ一層廣キ權限ヲ第三者

ニ與ヘタルキハ此限ニ在ラス

第三十四條 賣買契約ノ費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス但雙方カ別段ノ定メヲ爲シタルキハ此限ニ在ラス

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三十五條 配偶者ノ間ニ於テハ動産ト不動産トヲ間ハス賣買ノ契約ヲ禁ス

配偶者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ負擔スル眞實且正當ナル債務ヲ消滅セシムルニハ相互ニ代物辨濟ヲ爲スヲ得
右代物辨濟ハ相當ノ説明ヲ爲セル後裁判所ノ認許ヲ得タルニ非サレハ配偶者ノ間ニ於テ有効且完全ナラス
又此代物辨濟カ不動産物權ヲ目的トスルキハ其代物辨濟ハ登記中ニ右認許ヲ附記シタルニ非サレハ第三者ニ對シテ効力ヲ有セス

第三十六條 前條ニ基キタル銷除ノ訴權ハ賣渡又ハ認許ナキ代物辨濟ヲ爲シタル配偶者、其相續人又ハ承繼人ノミニ屬ス但其訴權ハ財産編第五百四十四條以下ノ一般ノ規則ニ從フ

第三十七條 法律上、裁判上若クハ合意上ノ管理者ハ直接ニ自己ノ名ヲ以テスルモ間介人ニ依ルモ賣渡ノ任ヲ受ケタル財産ニ付キ協議上又ハ公賣上ノ取得者ト爲ルヲ得ス
此制禁ハ公賣ヲ處理シ又ハ指揮スルヲ法律ニ依リテ任セラレタル公吏ニ之ヲ適用ス

第三十八條 前條ノ規定ニ背キタル賣買ノ銷除訴權ハ原所有者、其相續人及ヒ承繼人ノミニ屬ス

第三十九條 判事、檢事及ヒ裁判所書記ハ爭ニ係ル物權又ハ人權ニシテ其職務ヲ行フ裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノノ取得者ト爲ルヲ得ス
此制禁ハ右同一ノ條件ヲ以テ辯護士及ヒ公證人ニ之ヲ適用ス

第四十條 前條ヨリ生スル銷除訴權ハ讓渡人、權利ヲ爭フ相手

方、其雙方ノ相續人及ヒ承繼人ニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス
又權利ヲ爭フ相手方、其相續人又ハ承繼人ハ讓受人ニ讓渡ノ
現價ト辨濟ノ日ヨリノ利息トヲ辨償シテ其權利ノ受戻ヲ爲
スヲ得

右ノ規定ハ違背者ニ對スル懲戒ノ罰ヲ妨ケス

第三款 賣渡スヲ得サル物

第四十一條 賣買カ性質ニ因リテ一般ニ融通スルヲ得サル
物又ハ特別法ヲ以テ各人ニ處分ヲ禁シタル物ヲ目的トスル
キハ其賣買ハ無効ナリ
此賣買ノ無効ハ抗辯ニ依ルモ訴ニ依ルモ當事者各自ニ之ヲ
援用スルヲ得
當事者ノ一方カ詐欺ヲ以テ賣買ノ制禁ナルヲ隱藏シタル
キハ損害賠償ノ責ニ任ス

第四十二條 他人ノ物ノ賣買ハ當事者雙方ニ於テ無効ナリ

然レモ賣主ハ賣買ノ際其物ノ他人ニ屬スルヲ知ラサルニ
非サレハ其無効ヲ援用スルヲ得ス

第四十三條 賣買契約ノ當時ニ於テ物カ既ニ全部滅失シタル

キハ其賣買ハ無効ナリ但賣主カ此滅失ヲ知リタルキ又ハ賣
主ニ之ヲ知ラサル過失アルキハ善意ノ買主ニ對スル損害賠
償ヲ妨ケス
物ノ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ買主之ヲ知ラサリシキハ買主
ハ其選擇ヲ以テ或ハ殘餘ノ部分カ用方ニ不十分ナルヲ證
シテ賣買ヲ解除シ或ハ割合ヲ以テ代價ヲ減少シテ賣買ヲ保
持スルヲ得但此二箇ノ場合ニ於テ賣主ニ過失アルキハ其
損害賠償ヲ妨ケス
賣買解除ノ請求ハ買主カ一分ノ滅失ヲ知リタル時ヨリ六個

月ヲ過キ又代價減少ノ請求ハ此時ヨリ二個年ヲ過クレハ之ヲ受理セス

第二節 賣買契約ノ効力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第四十四條 賣買契約ハ賣渡物ノ所有權ノ移轉及ヒ其物ノ危險ニ付テハ財産編第三百三十一條、第三百三十二條、第三百三十五條及ヒ第四百十九條ニ定メタル如キ普通法ノ規則ニ從フ

第四十五條 賣買ノ目的カ不動産ナルキハ其契約ヲ以テ賣主ノ特定且善意ノ承繼人ニ對抗スルニハ財産編第三百四十八條以下ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スヲ要ス

財産編第三百四十六條及ヒ第三百四十七條ハ右同一ノ目的ヲ以テ有體動産及ヒ債權ノ賣買ニ之ヲ適用ス

第二款 賣主ノ義務

第四十六條 賣主ハ定量物ノ所有權ヲ移轉スル義務ノ外尙ホ賣渡物ヲ引渡ス義務、引渡ニ至ルマテ其物ヲ保存スル義務及ヒ妨碍、追奪ニ對シテ買主ヲ擔保スル義務ニ任ス

第四十七條 賣主ハ賣渡物ヲ其合意シタル時期及ヒ場所ニ於テ現存ノ形狀ニテ引渡ス責ニ任ス但其保存ニ付キ懈怠アルキハ買主ニ對シテ賠償ヲ負擔ス

引渡ノ時期及ヒ場所ニ付キ合意ヲ爲サザリシキハ財産編第三百三十三條第六項及ヒ第七項ノ規定ニ從フ
然レモ買主カ代金辨濟ニ付キ合意上ノ期間ヲ得ザリシキハ賣主ハ其辨濟ヲ受クルマテ賣渡物ヲ留置スルヲ得
賣主ハ代金辨濟ノ爲メ期間ヲ許與シタルキト雖モ買主カ賣

買後ニ破産シ若クハ無資力ト爲リ又ハ賣買前ニ係ル無資力
ヲ隱蔽シタルキハ尙ホ引渡ヲ遅延スルヲ得

第四十八條 賣主ハ契約ニ定メタル數量ヲ過不足ナク引渡ス
ヲ要ス

然レモ下ノ數條ニ定メタル場合及ヒ區別ニ從ヒテ賣主又ハ
買主ハ約シタル數量ヨリ多ク讓渡シ又ハ取得スル責ニ任ス
第四十九條 賣渡物カ特定不動産ニシテ契約ニ其全面積ヲ明
言シ且各坪ノ代價ヲ指示シタル場合ニ於テ現實ノ面積カ指
示ノ面積ニ不足アルキハ賣主ハ面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言
シタルキト雖モ割合ヲ以テ代價減少ノ要求ニ服ス

現實ノ面積カ指示ノ面積ニ超過アルキハ買主ハ割合ヲ以テ
代價補足ノ要求ニ服ス
第五十條 全面積ヲ明言シ唯一ノ代價ヲ以テ不動産ヲ賣渡シ

其面積ノ不足ノ場合ニ於テ賣主ハ惡意ナルキ又ハ善意ナル
モ面積ヲ擔保シタルキ又ハ不足ノ坪數カ少ナクモ二十分一
ナルキニ非サレハ代價減少ヲ要求ニ服セス
面積ヲ擔保セス又ハ面積ハ概算ナリト以テ附記ハ惡意ナル賣
主ノ責任ヲ減セス
超過ノ場合ニ於テ買主ハ其超過カ二十分一ニ及ヘルキニ
非サレハ代價補足ノ要求ニ服セス

第五十一條 建物ノ存スルト否トヲ問ハス數箇ノ土地ヲ一箇
ノ契約ヲ以テ其各箇ノ面積ヲ指示シ唯一ノ代價ニテ賣渡シ
タル場合ニ於テ其面積カ一箇ノ土地ニ超過アリ一箇ノ土地
ニ不足アルキハ其坪ノ箇數ニ從ハス價額ニ從ヒテ相殺ス
此相殺ノ後猶ホ原價二十分一ノ過不足アルキハ割合ヲ以テ
代價ヲ増加シ又ハ之ヲ減少ス

此規定ハ一箇ノ土地内ニ於テ別異ノ性質アル各部分ノ面積
ヲ指示シタル場合ニモ之ヲ適用ス

第五十二條 買主ハ面積不足ノ爲メ代價減少ニ付キ權利ヲ有
スル場合ニ於テ尙ホ損害ノ賠償ヲ要求スルヲ得又買主ハ
約シタル面積カ其用方ニ必要ナルヲ證シテ契約ノ解除ヲ
モ請求スルヲ得但面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタル賣買
ハ此限ニ在ラス

超過ノ場合ニ於テ買主ハ二十分一以上ノ代價補足ヲ辨償ス
ルヲ要スルキハ單純ニ契約ヲ解除スルヲ得

第五十三條 前記ノ規則ハ目方、員數及ヒ尺度ヲ以テ指示シタ
ル數量カ買主ニ於テ容易且即時ニ調査スルヲ得サル日用
品及ヒ動産物ノ賣買ニ之ヲ適用ス

第五十四條 前數條ヨリ生スル代價改正、損害賠償又ハ契約解

除ノ訴權ハ不動産ニ付テハ一年動産ニ付テハ二个月ノ期
間ニ之ヲ行フヲ要ス

右期間ノ經過ハ賣主ニ在テハ契約ノ日ヨリ買主ニ在テハ引
渡ノ日ヨリ始マル

第五十五條 動産又ハ不動産ノ賣買ニ於テ錯誤カ其物ノ品質
ニ存スルキハ財産編第三百十條ノ規定ヲ適用ス

第二則 追奪擔保ノ義務

第五十六條 他人ノ物ヲ賣買シタル場合ニ於テ擔保ノ事ニ付
キ何等ノ特別ナル合意モ有ラザリシキハ買主ハ未ダ追奪ノ
恐アルニ至ラザルキト雖モ賣買無効ノ判決ヲ求ムルヲ得
又買主カ契約ノ當時其物ノ賣主ニ屬セサルヲ知リ賣主カ
之ヲ知ラザリシキト雖モ亦同シ

第五十七條 買主カ惡意ナリシキハ賣買ノ無効及ヒ追奪擔保

ノ効果ハ買主ニ其猶ホ負擔スル代金辨濟ノ義務ヲ免カレシ
メ又ハ其既ニ辨濟シタル代金ヲ取戻スヲ許スニ在ルノミ
買主ハ買受物ノ價格カ減少シタルキト雖モ右取戻ニ於テ代
金ノ減少ヲ受クルヲ無シ但價格ノ減少カ自己ノ詐欺ニ出テ
又ハ自己ノ利益ト爲リタルキハ此限ニ在ラス
如何ナル場合ニ於テモ買主カ其辨濟シタル代金ヲ取戻シタ
ルキハ物ノ占有ヲ賣主ニ返還スルヲ要ス

第五十八條 買主ハ契約ノ當時善意ナリシキハ右ノ外尙ホ左
ノ諸件ノ辨償ヲ受ク

第一 買主ノ支拂ヒタル契約費用ノ部分

第二 買受物ニ付キ買主カ支拂ヒタル費用ニシテ所有者
ヨリ其辨償ヲ受クルヲ得サルモノ

第三 買受物ニ生シタル増價額但意外ノ事ニ因ルモ亦同

第四 所有者ノ請求後ニ收取シ之ニ返還スルヲ要スル
果實

然レモ買主ハ果實ニ換ヘテ之ニ對當スル時期間ノ賣買
代金ノ法律上ノ利息ヲ受クルヲ欲スルキハ之ヲ請求
スルヲ得

又善意ナル買主ハ此他所有者ノ回復ノ訴ニ對スル答辯ノ費
用及ヒ擔保請求ノ費用等總テノ損害賠償ヲ普通法ニ從ヒテ
請求スルヲ得

第五十九條 賣主ハ契約ノ當時善意ナリシキハ財産編第三百
八十五條ニ從ヒテ正當ニ豫見スルヲ得ヘカリシ限度ニ非
サレハ前條ノ第二號第三號及ヒ末項ニ定メタル賠償ヲ負擔
セス

第六十條 善意ナル賣主ハ契約後ニ賣渡物ノ他人ニ屬スルヲ覺知シタルキハ買主ヨリ代金ヲ提供スト雖モ其物ノ引渡ノ請求ヲ受クルニ當リ賣買ノ無効ヲ申立テ且抗辯ノ方法ニ依リテ擔保ノ定方ノ判決ヲ求ムルヲ得但買主カ追奪ノ場合ニ於ケル求償權ヲ拋棄スル旨ヲ明白ニ陳述シタルキハ此限ニ在ラス

第六十一條 右覺知カ引渡後ニ在リタルキハ賣主ハ買主カ即時ニ擔保訴權ヲ行フヤ又ハ已レト立會ヒ第五十八條ニ從ヒテ現時負擔ノ賠償額ヲ評定スルヤニ付キ買主ヲ遲滯ニ付スルヲ得
此末ノ場合ニ於テ賣主ハ其受取リタル代金ト共ニ右評價ノ金額ヲ提供シテ供託シタルキハ縱令擔保ノ請求アルモ此他ノ責任ヲ負擔セス

供託シタル金額ヲ引取ルノ權利ヲ財産編第四百七十八條ニ從ヒテ行使シタル賣主ハ再ヒ本條ノ許與セル權能ヲ援用スルヲ得ス

第六十二條 他人ノ物ノ賣主ハ日後其物ノ所有者ト爲リタルキハ買主ヲシテ賣買ヲ認諾スルヤ擔保訴權ヲ行フヤノ一ヲ擇マシムルヲ何時ニテモ催告スルヲ得
右同一ノ權利ハ他人ノ物ノ賣主ノ相續人ト爲リタル眞所有者ニ屬ス

第六十三條 買受物ノ分割ノ部分カ完全所有權又ハ虛有權ニテ第三者ニ屬スル場合ニ於テ買主カ此部分ヲ取得スルヲ得サルヲ知レハ初ヨリ其物ヲ買ハサル可キ程ニ其性質又ハ廣狹ニ因リテ有益ナルヲ證スルキハ全部追奪ノ爲メ定メタル如ク損害ノ賠償ヲ得テ契約ヲ解除スルヲ得

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルキハ其受ケタル直接且現時ノ損失ノ限度ニ於テ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第六十四條 買受物ノ不分ノ部分カ第三者ニ屬スルキハ其部分ノ重要ノ如何ニ拘ハラズ買主ハ損害賠償ヲ得テ契約ヲ解除スル權利ヲ有ス

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルキハ買受物ノ價格ノ減少シタルキト雖モ常ニ此ニ對當スル買受代金ト契約費用トノ部分ヲ取戻シ又其價格ノ増加シタルキハ其損害ノ賠償ヲ受ク

第六十五條 或ハ賣渡シタル土地ニ屬スルモノトシテ契約ニ於テ述ヘタル働方地役ノ追奪アリタルキ或ハ契約ニ於テ述ヘサル人爲ヲ以テ設定シタル受方地役ニ關シ又ハ財産ノ一分ニ存スル用益權、賃借權ニ關シテ第三者ノ要求アリタルキハ第六十三條ノ規定ヲ適用ス財産ノ全部ニ存スル用益權又

第六十九條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ總テノ連帶債務者又

ハ其中ノ數人ノ無資力ト爲リタル場合ニ於テ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各清算ニ加ハルコトヲ得

然レモ債權者カ清算ノ一ニ於テ配當金ヲ受取りタルキハ他ノ清算ニ於テ其債權ノ全額ニ從ヒ債權者ニ充テタル新配當金ハ以前ノ配當ニ於テ未タ受取ラサルモノノ割合ニ應スルニ非サレハ債權者之ヲ受取ルコトヲ得ス
受取ノ超過額アルニ於テハ各清算ニ之ヲ返還ス但各清算ノ辨濟シタルモノノ割合ニ從フ

第三款 債務者間ノ連帶ノ終了

第七十條 債權者カ總債務者ニ對シテ連帶ヲ拋棄スルキハ財產編第四百三十八條第一項ニ規定シタル如ク其債務者ノ義務ハ單ニ連合ノモノト爲リテ存シ其他ノ性質ヲ變スルコト無

第七十一條 財產編第五百十條ニ從ヒ明示又ハ默示ニテ債務者ノ一人又ハ數人ニ對シテノミ連帶ノ拋棄アリタルキハ他ノ債務者ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ノ部分ニ於テノミ其義務ヲ免カル

連帶ノ免除ヲ得サル債務者中ニ無資力者アルキハ債權者ハ其無資力ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者ノ部分ヲ負擔ス

七十二條 債權者カ連帶債務者ノ一人ヨリ供シタル擔保ニシテ他ノ債務者ノ辨濟シテ代位スルヲ得ヘキモノノ全部又ハ一分ヲ毀損シ又ハ滅失セシメタルキハ他ノ債務者ハ其擔保ヲ供シタル者ノ部分ニ付キ連帶ノ義務ヲ免カレント請求スルヲ得

右ノ請求ニ因リテ宣告シタル免責ハ連帶ノ任意免除ト同一

又賣主ハ明示ニテ債務者ノ有資力ノ擔保ヲ諾約シタルニ非サレハ其擔保ノ責ニ任セス

有資力ノ擔保ニ任シタル場合ニ於テモ賣主ハ債權カ既ニ滿期ト爲リタルキハ讓渡ノ日ニ於ケル有資力ノミニ付キ且受取りタル代金ノ限度ニ從ヒテ其責ニ任ス但一層廣大ナル擔保ノ明約ト裏書ヲ以テ讓渡ス商證券ノ特別規則トチ妨ケス

未タ滿期ト爲ラサル債權ノ讓渡ニ於テ讓渡人カ他ノ特約ナクシテ債務者ノ將來ノ有資力ヲ擔保シタルキハ其擔保ハ滿期ヨリ一个年又無期年金權ニ付テハ其讓渡ヨリ十個年ニテ絶止ス

第六十九條 物權ト人權トヲ問ハス爭ニ係ル權利ノ讓渡ニ於テハ讓渡人ハ特別ノ合意ナク且讓受人カ爭アルヲ知リタルキハ其主張ノ虛構ナラサルヲ擔保スルノミニシテ讓渡

シタル權利ノ眞ノ成立ヲ擔保セス
裁判上ト裁判外トヲ問ハス本權ニ關スル明白ノ争ノ目的タル權利ニ付テノミ右ノ規定ヲ適用ス
讓渡人ハ其主張ノ虚構ナリシ場合ニ於テハ讓渡代金ノ返還ノ外讓受人カ正當ニ期望シタル利益ノ賠償ヲ負擔ス
第七十條 會社ニ於ケル自己ノ權利ヲ賣渡シタル者ハ其權利ノ存立及ヒ其賣買契約ニ示セル權利ノ廣狹ニ付テノミ擔保ノ責ニ任ス
會社ノ從前ノ營業ヨリ生シ既ニ清算濟ト爲リタル賣主ノ權利及ヒ義務ハ買主ニ利害ノ關係ヲ及ホスヲ無シ
賣主ト會社トノ間ニ於ケル特別ノ計算ニ付テモ亦同シ
第七十一條 上ノ場合ニ於テ無擔保ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルキト雖モ買主カ追奪ヲ受ケタルニ於テハ賣主ハ代

金ヲ返還スル責ニ任ス但買主カ賣買ノ時ニ於テ追奪ノ危険アルヲ了知シタルキハ賣主ハ此返還ヲ負擔セス
賣主ハ買主ノ危険負擔ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルノミニ因リテ亦代金ヲ返還スル責ヲ免カル
然レモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約款ニ依ルモ賣主ハ賣買ノ前後ヲ問ハス第三者ニ授與シタル權利ヨリ生スル妨碍又ハ追奪ノ擔保ヲ免カルルヲ得ス
第七十二條 賣主カ擔保ノ義務ノ全部又ハ一分ヲ買主ノ惡意ノ故ヲ以テ免カレント主張スルキハ賣渡物ニ關スル行爲カ第三者ノ利益ノ爲メニ登記シ有リト雖モ其登記ノミニテハ買主ノ惡意ヲ證スルニ足ラス尙ホ賣主ハ登記官吏ノ認證書ニ依リ又ハ其他ノ方法ヲ以テ買主カ賣買ノ前ニ此行爲ヲ了知シタル直接ノ證據ヲ供スルヲ要ス

第七十三條 財産編第三百九十九條及第四百條ハ擔保ノ爲メニスル財産ノ召喚ニ付キ及ヒ追奪ヲ受ケタル買主カ擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメサル爲メニ生スル失權ニ付キ之ヲ適用ス

第三款 買主ノ義務

第七十四條 買主ハ合意シタル時期ニ於テ代金ヲ辨濟スルヲ要ス又其時期ニ付キ特別ノ合意ナキハ引渡ノ時ニ於テ之ヲ辨濟スルヲ要ス
引渡ヲ日後ニ延フルノ合意アルキハ代金ノ辨濟ヲモ暗ニ日後ニ延フルモノト推定ス
賣主カ引渡ノ爲メ恩惠期限ヲ裁判所ヨリ得タルキハ買主ハ代金辨濟ノ爲メ同一ノ期間ヲ享有ス
代金辨濟ノ恩惠期限ハ引渡ノ爲メ賣主亦之ヲ享有ス

第七十五條 代金辨濟ノ場所ヲ合意セサルキハ其辨濟ハ有體動産ニ付テハ引渡ヲ爲ス場所不動産、債權、争ニ係ル權利又ハ會社ニ於ケル權利ニ付テハ證書ノ交付ヲ爲ス場所ニ於テ之ヲ爲ス
引渡ノ前又ハ後ニ代金ノ辨濟ヲ要求スルヲ得ヘキハ其辨濟ハ買主ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

第七十六條 買受物カ果實其他金錢ニ見積ルヲ得ヘキ定期ノ利益ヲ生スルキハ買主ハ引渡ノ時ヨリ當然代金ノ利息ヲ負擔ス
反對ノ場合ニ於テハ利息ハ特別ノ合意又ハ辨濟ノ催告ニ依ルニ非サレハ之ヲ負擔セス
第七十七條 買主カ物上訴權ニ因リテ妨碍ヲ受ケ又ハ妨碍ヲ受クル恐アル正當ノ事由ヲ有スルキハ賣主カ其妨碍若クハ

危険ヲ止マシムルマテ又ハ追奪アリタルニ於テハ代金ヲ返還スル爲メノ保證人ヲ立ツルマテ買主ハ此訴權ノ輕重ニ從ヒテ代金ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得此規定ハ買主カ買受物ノ他人ニ屬スルヲ直接ニ證スルコトヲ得ルキハ賣買無効ノ判決ヲ求メ及ヒ擔保ノ訴權ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十八條 買受ケタル不動産ニ付キ抵當權又ハ先取特權ノ記入アルキハ買主ハ滌除ノ方式ヲ行フタル後ニ非サレハ代金ヲ辨濟スル責ナシ但法律上ノ期間ニ於テ滌除ヲ行フコトヲ要ス

第七十九條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ其先取特權及ヒ第三者ニ對スル解除ノ權利ヲ保存スル爲メノ公示ヲ爲ササリシキハ當事者雙方ノ名ヲ以テ買主ヲシテ猶豫ナク代金ヲ供託

セシムルコトヲ得但其代金ハ當事者雙方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リ且諸手續ノ終了後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第八十條 動產物ノ買主カ代金ヲ辨濟シタルト否トヲ問ハス引渡ヲ受クル權利ヲ有スル時ニ於テ其引渡ヲ受クルコトヲ拒ミタルキハ賣主ハ財産編第四百七十四條乃至第四百七十八條ニ從ヒテ其賣渡物ノ提供及ヒ供託ヲ爲スコトヲ得然レモ日用品其他速ニ敗損ス可キ物ニ付テハ賣主ハ買主ノ爲メ之ヲ轉賣スルコトヲ得ルキハ其轉賣ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除
第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第八十一條 當事者ノ一方カ上ニ定メタル義務其他特ニ負擔スル義務ノ全部若クハ一分ノ履行ヲ缺キタルキハ他ノ一方

ハ財産編第四百二十一條乃至第四百二十四條ニ從ヒ裁判上ニテ契約ノ解除ヲ請求シ且損害アレハ其賠償ヲ要求スルヲ得

當事者カ解除ヲ明約シタルキハ裁判所ハ恩惠期限ヲ許與シテ其解除ヲ延ヘシムルヲ得ス然レモ此解除ハ履行ヲ缺キタル當事者ヲ遲滯ニ付シタルモ猶ホ履行セサルキニ非サレハ當然其効力ヲ生セス

第八十二條 買主カ辨濟其他ノ義務ヲ缺キタル爲メノ解除ハ買主ノ猶ホ代金ノ全部若クハ一分ノ負擔又ハ他ノ負擔ヲ明示シタル賣買證書ニ依リ登記ヲ爲シタルニ非サレハ賣主ヨリ轉得者ニ對シテ之ヲ請求スルヲ得ス但債權擔保編第一百八十二條ノ規定ヲ妨ケス

第八十三條 辨濟期限ノ定アル動産ノ賣買ニ於テ其引渡ヲ實

行シタルキハ辨濟ヲ缺キタル爲メノ賣主ノ解除ノ權利ハ買主ノ他ノ債權者ヲ害シテ之ヲ行フヲ得ス

辨濟期限ノ定ナキ賣買ニ付テハ賣主ハ引渡ヨリ八日內ニ賣買ヲ解除スルヲ得然レモ善意ナル第三者ノ既得ノ物權ヲ害スルヲ得ス

第二款 受戻權能ノ行使

第八十四條 賣主ハ賣買證書ニ明記シタル受戻ノ約款ニ依リ買主ノ辨濟シタル代金ト費用ノ部分トヲ指定ノ期間ニ買主ニ返還スルニ於テハ其賣買ヲ解除ス可キヲ要約スルヲ得

右期間ハ不動産ニ付テハ五個年、動産ニ付テハ二個年ヲ超ユルヲ得ス此ヨリ長キ時期ノ要約ハ當然之ヲ此期限ニ短縮ス

一旦期間ヲ定メタル以上ハ右制限內ト雖モ之ヲ伸長スルヲ

ヲ得ス

然レモ其伸長ハ之ヲ再賣買ノ豫約ト看做スヲ得此場合ニ於テハ第二十六條及ヒ第二十七條ノ規定ニ從フ

賣買後ニ於テ爲シ又ハ別證書ヲ以テ爲シタル受戻ノ要約ニ付テモ亦同シ

賣主ハ代金ノ半額以上ノ辨濟ノ爲メ期限ヲ與ヘ且其期限カ受戻ノ爲メ定メタル期間ノ半以上ニ及ヘルキハ有効ニ受戻ノ權能ヲ要約スルヲ得ス

第八十五條 不動産ニ付テハ法律ノ定メタル期間ニ其定メタル條件ヲ以テ爲シタル受戻權能ノ行使ハ買主カ第三者ニ授與シ又ハ第三者カ買主ノ權ニ基キテ取得シタル物權ヲ排除シテ其不動産ヲ賣主ニ復セシム但賃借權ニシテ殘期ノ一个年ヲ超エサルモノハ此限ニ在ラス

動產物ニ付テハ受戻ノ權能ハ善意ニテ其動產物上ニ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フヲ得ス

第八十六條 賣主ノ債權者ハ賣主ニ代ハリテ受戻ノ權能ヲ行フヲ得

然レモ買主ハ右債權者カ豫メ其債務者ノ無資力ヲ證シ且財産編第三百三十九條ニ從ヒテ受戻權能ノ行使ノ爲メ裁判上ニテ賣主ニ代位スルヲ要求スルヲ得

買主ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價シタル買受物ノ現時ノ價額ト第八十八條ニ從ヒテ賣主ヨリ已レニ返還ス可キ金額トノ差額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シテ債權者ノ訴ヲ止ムルヲ得

第八十七條 賣主カ受戻ノ約款ニテ賣渡シタル物ヲ日後抵當トシ又ハ之ニ其他ノ物權ヲ負擔セシメタルキハ其權利ノ効

力ハ賣主又ハ其債權者ノ受戻權能ヲ行ヒタル後ニ非サレハ
生セス
賣主カ受戻ニ服スル物ノ所有權ヲ讓渡シタルキハ讓受人ハ
自己ノ名ヲ以テ受戻ヲ爲スヲ得然レモ讓渡前ニ賣主カ他
人ニ對シテ承諾シ且登記ヲ經タル此他ノ物權ヲ妨碍スル
ヲ得ス但其擔保訴權ヲ失フヲ無シ
第八十八條 賣主カ受戻ノ權能ヲ行ハントスルキハ指定ノ期
間ニ賣買代價及ヒ契約費用ノ外尙ホ物ノ保存費用ヲ買主ニ
辨償スルヲ要ス
買主カ右金額ヲ受取ルヲ拒ミタルキハ賣主ハ猶豫ナク之
ヲ供託スルヲ要ス
賣主ハ物ノ改良費用ヲモ辨償スルヲ要ス然レモ裁判所ハ
此辨償ニ付テハ賣主ニ猶豫ヲ許スヲ得

買主ハ右金額ノ皆濟ヲ受クルマテ其物ノ上ニ留置權ヲ有ス
第八十九條 不動産ノ共有者ノ一人カ其不分ノ部分ヲ受戻約
款ニテ賣リタル場合ニ於テ買主カ他ノ共有者ヨリ促カサレ
タル競賣ニ因リテ競落人ト爲リタルキハ賣主ハ前條ニ掲ケ
タル金額ニ競賣ノ代金ヲ加ヘテ其不動産ノ全部ニ對スルニ
非サレハ受戻ヲ爲スヲ得又買主ハ之ニ故障ヲ述フル
ヲ得ス
買主カ自ラ競賣ヲ促シタルキハ賣主ハ其賣渡シタル部分ニ
付テノミ受戻ヲ爲スヲ得又買主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述
フルヲ得
第九十條 孰レヨリ競賣ヲ促カシタルヲ問ハス買主ニ非サル
共有者ノ一人又ハ外人ノ競落シタル場合ニ於テ賣主ハ競賣
ニ召喚セラレサリシキハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ競落

人ニ對シテ受戻ノ權利ヲ有シ之ニ反スルキハ其權利ヲ失フ
第九十一條 現物ヲ以テ分割シタルキ賣主カ其分割ニ召喚セ
ラレタルニ於テハ賣主ハ孰レヨリ分割ヲ促カシタルヲ問ハ
ス他ノ所有者ニ歸シタル部分ニ付キ何等ノ要求ヲモ爲ス
ヲ得スシテ買主ニ歸シタル部分ノミヲ受戻スヲ得但買主
ノ供與シ又ハ受取りタル補足代金ヲ賣主買主ノ間互ニ計算
スルヲ妨ケス
賣主カ分割ニ召喚セラレサリシキハ賣主ハ選擇ヲ以テ或ハ
其分割ヲ認諾シ買主ニ對シテ前項ニ示シタル權利ヲ行ヒ或
ハ第八十八條ニ掲ケタル金額ヲ買主ニ辨償シ共有者ニ對シ
テ再分割ヲ促カスヲ得
第九十二條 不分割ノ共有者カ一箇ノ契約及ヒ唯一ノ代價ニ
テ其物ヲ受戻ノ約款ヲ以テ賣渡シタルキハ買主ハ一分ニ付

キ受戻ヲ受クル責ナシ
又買主ハ賣主ノ一人ヨリ爲ス全部ノ受戻ニ故障ヲ述フル
ヲ得
之ニ反シテ數人ノ共有者カ各別ノ契約ヲ以テ各自ノ部分ヲ
賣渡シタルキハ各別ニ受戻ヲ爲スヲ得但第八十九條及ヒ
第九十一條ノ規定ハ之ヲ此場合ニ適用スルヲ得
第九十三條 數人ノ買主カ一箇ノ契約又ハ各別ノ契約ヲ以テ
一箇ノ財産ヲ受戻ノ約款ニテ取得シタルキ賣主カ買主ノ間
ニ分割ヲ爲ササル前ニ受戻ヲ爲サント欲スルニ於テハ賣主
ハ總買主ニ對シ又ハ一人若クハ數人ノ買主ニ對シテ其各自
ノ部分ニ付キ受戻ヲ爲スヲ得
既ニ分割ヲ爲シタルキハ賣主ハ各買主ニ對シ分割又ハ競賣
ニ因リテ其各自ニ歸シタル部分ノミニ非サレハ受戻ヲ爲ス

ヲ得ス

第三款

隠レタル瑕疵ニ因ル賣主廢却訴權

第九十四條 動産ト不動産トヲ問ハス賣渡物ニ賣買ノ當時ニ於テ不表見ノ瑕疵アリテ買主之ヲ知ラス又修補スルヲ得ス且其瑕疵カ物ヲシテ其性質上若クハ合意上ノ用方ニ不適當ナラシメ又ハ買主其瑕疵ヲ知レハ初ヨリ買受ケサル可キ程ニ物ノ使用ヲ減セシムルキハ買主ハ其賣買ノ廢却ヲ請求スルヲ得

此場合ニ於テハ買主ハ辨濟代金ト契約費用トヲ取戻シ其代金ノ利息ハ請求ノ日ニ至ルマテノ物ノ收益又ハ使用ト之ヲ相殺ス

第九十五條 買主カ隠レタル瑕疵ノ賣買廢却訴權ヲ行フ可キ程ニ重大ナルヲ證スルヲ能ハス又ハ物ヲ保有スルヲ欲ス

ルキハ買主ハ便益ヲ失フ割合ニ應シテ代價ノ減少ヲ請求スルヲ得

第九十六條 買主カ賣主ニ對シ賣買ノ廢却又ハ代價ノ減少ヲ得タルニ拘ハラズ賣主カ初ヨリ其瑕疵ヲ知リタルキハ買主ハ尙ホ其受ケタル損害又ハ失ヒタル利益ニ付テノ賠償ヲ要求スルヲ得

第九十七條 隠レタル瑕疵ヲ擔保セストノ要約ハ賣主ヲシテ初ヨリ自ラ了知シ且詐欺ヲ以テ隱蔽シタル瑕疵ニ付テノ責任ヲ免カレシメス

第九十八條 賣主ノ當時ニ於テ物ニ瑕疵アリタルヲ其瑕疵ヨリ買主ニ損害ヲ生シタルヲ及ヒ買主又ハ賣主カ其瑕疵ヲ了知シタルヲハ人證、鑑定其他ノ法律上ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證ス

第九十九條 賣買廢却、代價減少及ヒ損害賠償ノ訴ハ左ノ期間ニ於テ之ヲ起スヲ要ス

第一 不動産ニ付テハ六個月

第二 動産ニ付テハ三個月

第三 動物ニ付テハ一個月

右期間ハ引渡ノ時ヨリ之ヲ起算ス

然レモ此期間ハ買主カ瑕疵ヲ知レル證據アリタル日ヨリ其半ニ短縮ス但其殘期カ此半ヲ超ユルキニ限ル

買主カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ右期間ニ隱レタル瑕疵ヲ覺知スル能ハサリシヲ證スルキハ其期間ノ滿了後ニ

於テモ訴ヲ爲スヲ得此場合ニ於テハ意外ノ事又ハ不可抗力ノ止ミタル時ヨリ通常期間ノ三分一ヲ以テ新期間ト爲ス

第一百條 隱レタル瑕疵ニ基キタル代價減少ノ訴權ハ買主カ買

受物ヲ無償又ハ有償ニテ讓渡シタルモ之ヲ失ハス但有償ノ讓渡ノ場合ニ於テハ其瑕疵ノ爲メ買主カ損失ヲ受ケタルキ又ハ讓受人ヨリ訴ヘラレ若クハ訴ヘラレルノ恐レ有ルキニ限ル

第一百一條 賣渡物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ全部又ハ半以上滅失シタルキハ賣買廢却訴權ヲ行フヲ得ス

滅失部分ノ多少ニ拘ハラズ代價減少ノ訴權ハ殘存部分ノ割合ニ應シテ存立ス

如何ナル場合ニ於テモ賣主ハ隱レタル瑕疵ヨリ生スル全部又ハ一分ノ滅失ノ責ニ任ス

第一百二條 合式ノ強制賣却ハ賣買廢却訴權ヲモ代價減少訴權ヲモ生セス

第一百三條 或ル動物又ハ日用品ノ隱レタル瑕疵ニ付テハ特別

法ヲ以テ其賣買上ノ効果ヲ定ムルニ至ルマテ本法ノ規定ヲ適用ス

第四節 不分物ノ競賣

第一百四條 不分財產ノ分割ヲ爲スニ當リ共有者ノ一人タリモ現物ノ分割ヲ拒ム者アルキハ其財產ノ協議賣却又ハ競賣ヲ爲シ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シテ其代金ヲ配當ス

第一百五條 共有者カ其一人若クハ第三者ニ協議賣却ヲ爲シ又ハ相互ノ間ニ競賣ヲ爲スニ付キ一致ヲ得ル能ハサルキ又ハ共有者中ニ失踪者若クハ無能力者アルキハ裁判所又ハ裁判所ノ指定シタル公吏ノ前ニ於テ不分物ノ競賣ヲ爲ス但民事訴訟法ニ定メタル競賣方式ニ從フヲ要ス

共同競賣者ノ各自ハ常ニ競賣ニ外人ノ參與ヲ許スヲ要求スルヲ得共有者ノ一人カ失踪シ又ハ無能力ナルキハ外人ノ

參加ハ當然且必要ナリトス

第一百六條 共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルキハ其競賣又ハ協議賣却ハ共有者間ノ分割ノ行爲ト看做サレ會社ノ分割ニ關シ規定シタル効力ヲ生ス

第三者ニ競落又ハ協議賣却ヲ爲シタルキハ其賣買ハ第三者ト原共有者トノ間ニ於テ本章ニ規定シタル賣買ノ効力ヲ生ス

第四章 交換

第一百七條 交換ハ當事者ノ一方カ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ヨリ取得シ又ハ之ヲシテ諾約セシメ其對價トシテ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移轉シ又ハ移轉スルヲ諾約スル契約ナリ

相互ノ權利ノ價額カ均一ナラサルキハ金錢其他ノ物ノ補足

ヲ以テ之ヲ均一ニス
金錢ノ補足カ交換ニ供シタル物ノ價額ヲ超ユルキハ其契約
ハ之ヲ賣買ト看做ス

第百八條 當事者ハ交換ニ供シ又ハ諾約シタル物又ハ權利ニ
對スル妨碍及ヒ追奪ノ擔保ヲ相互ニ負擔ス

當事者ノ一方カ他ノ一方ノ諾約シタル物又ハ權利ヲ取得ス
ルコトヲ得サリシキハ其選擇ヲ以テ或ハ金錢ノ對價ヲ要求ス
ルコトヲ得或ハ契約ノ解除ヲ請求シテ自己ノ供與シタルモノ
ヲ取戻スコトヲ得但執レノ場合ニ於テモ損害アレハ其賠償ヲ
受ク

右解除ノ權利ハ取戻ニ服スル不動産ニ付キ權利ヲ取得シタ
ル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス但財産編第三百五十二
條第一項ニ從ヒテ請求ノ公示前ニ其第三者ノ權原ノ登記ア

リタルキニ限ル

第百九條 賣買ノ規則ハ左ノ例外ヲ以テ交換ニ之ヲ適用ス

交換ハ配偶者ノ間ニ之ヲ爲スコトヲ許ス但交換物ノ價額ノ差
カ間接ノ利益ヲ成スキハ贈與ヲ禁制シ又ハ之ヲ制限スル規
則ニ從フ

當事者ノ一方又ハ雙方カ指定ノ期間ニ於テ任意ニ交換ヲ解
除スルコトヲ要約シタルキハ第二十七條ニ依リ賣買ノ豫約ヲ
以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル條件ニ從フニ非サレハ其解
除ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五章 和解

第百十條 和解ハ當事者カ交互ノ讓合又ハ出捐ヲ爲シテ既ニ
生シタル爭ヲ落着セシメ又ハ生スルコト有ル可キ爭ヲ豫防ス
ル契約ナリ

和解ノ成立、有効、効力及ヒ證據ハ下ノ規定ヲ除ク外合意ニ關スル一般ノ規則ニ從フ

第一百一十條 和解ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ銷除スルヲ得ス但其錯誤カ相手方ノ詐欺ニ起因スルキハ此限ニ在ラス

第一百一十二條 和解ハ偽造ノ書類又ハ無効ノ行爲ニ依リ承諾シタルヲ理由トシテ之ヲ銷除スルヲ得ス但此等ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキ當事者ニ於テ其書類ノ偽造ヲ知ラス又ハ其行爲ヲ法律ニ於テ無効ナラシムル所ノ事實ヲ知ラサリシキハ此限ニ在ラス

第一百十三條 定マリタル争ニ付キ爲シタル和解ハ新ニ發見シタル證書ニ因リテ當事者ノ一方カ争ノ目的ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス又ハ他ノ一方カ其目的ニ付キ完全且争フ可カラサル權利ヲ有スルヲノ顯ハレタルキハ事實ノ錯誤ノ爲メ

亦之ヲ銷除スルヲ得

確定シタル判決又ハ攻撃スルヲ得サル契約ニ因リ既ニ争ノ落着シタル場合ニ於テ其判決又ハ契約ヲ知ラスシテ爲シタルキモ亦同シ

然レモ和解カ從前ノ原因ヨリ生スルヲ有ル可キ總テノ争ヲ落着セシメ又ハ之ヲ豫防スルヲ目的トシタルキハ當事者ノ一方ノ利益タル確定證書ノ發見ハ其和解ノ銷除ヲ生セス但其證書カ相手方ノ所爲ニ因リテ扣留セラレタルキハ此限ニ在ラス

第一百十四條 有効ノ和解ハ當事者ノ相互ニ追認シタル權利又ハ利益ニシテ既ニ生シ又ハ豫見シタル争ノ目的タルモノニ付テハ當事者間ニ在テハ確定判決ノ權利ト均シキ認定ノ効力ヲ生ス此場合ニ於テハ其權利又ハ利益ハ從前ノ原因ニ由

リテ保持シタルモノト看做ス但當事者雙方ニ更改ヲ爲ス意思アリシキハ此限ニ在ラス
之ニ反シテ相互ニ供與シ又ハ諾約シタル權利又ハ利益ノ全部若クハ一分ニシテ争ノ目的タラザリシモノニ付テハ和解ハ物權又ハ人權ヲ生シ之ヲ移轉シ若クハ之ヲ消滅セシムル有償合意ノ規則ニ從フ

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第百十五條 會社ハ數人カ各自ニ配當ス可キ利益ヲ收ムル目的ニテ或ル物ヲ共通シテ利用スル爲メ又ハ或ル事業ヲ成シ若クハ或ル職業ヲ營ム爲メ各社員カ定マリタル出資ヲ爲シ又ハ之ヲ諾約スル契約ナリ
第百十六條 商事會社ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ定ム

第百十七條 社員ノ出資ハ或ハ動産又ハ不動産ノ所有權若クハ收益權或ハ金錢又ハ技術、勞力ヲ以テスルヲ得
出資ハ不均一ナルヲ得

第百十八條 民事會社ハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ法人ト爲スヲ得

此場合ニ於テハ會社ニ社名ヲ付シ且其契約ハ商事會社ノ公示ノ爲メ法律ニ規定シタル方式ニ從ヒテ之ヲ公示スルヲ要ス但社名ヲ付シ又ハ公示ヲ爲シタルキハ其會社ヲ法人ト爲ス意思アリト推定ス

第百十九條 合意ノ一般ノ規則殊ニ當事者ノ承諾、能力、合意ノ目的、原因及ヒ證據ニ關スルモノハ會社ニ之ヲ適用ス

第百二十條 會社ハ其目的ノ商事ニ在ラサルモ資本ヲ株式ニ分ツキハ商法ノ規定ニ從フ

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第二百一十一條 會社ハ契約ノ日ヨリ開始ス但明示又ハ默示ニテ他ノ期限ヲ定メ又ハ條件ヲ附シタルキハ此限ニ在ラス各社員ハ會社ノ開始スル時ニ於テ其諾約シタル出資ヲ差入ルルコトヲ要ス之ヲ差入レサルキハ其社員ハ出資ニ生スル果實及ヒ利息ヲ當然負擔ス且遲延ノ爲メ損害ヲ生シタルキハ出資ノ金錢ヲ以テスルキト雖モ其賠償ヲ負擔ス

第二百二十二條 技術又ハ勞力ノ出資ヲ諾約シタル社員カ其諾約ヲ缺キタルキハ其社員ハ他ノ社員ノ選擇ニ從ヒ會社ニ對シテ或ハ其義務ノ履行ヲ缺キタル當時ヨリ會社ノ受ケタル損害ヲ賠償シ或ハ其勞力ヲ會社外ニ用ヰテ得タル利益ヲ分與スル責ニ任ス

第二百二十三條 動產ト不動産トヲ問ハス特定物ノ所有權ヲ出

資ト爲スコトヲ諾約シタル社員ハ會社ニ對シ賣主ト同シク其物ノ妨碍、追奪又ハ面積、數量ノ不足及ヒ隠レタル瑕疵ニ付キ擔保ノ責ニ任ス又社員カ物ノ收益權ノミヲ出資ト爲スコトヲ諾約シタルキハ貸貸人ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第二百二十四條 會社契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ業務擔當人ヲ選任シタルキハ其各員ハ受任ノ權限ヲ踰ユルコトヲ得ス

權限ノ定マラサル業務擔當人ハ共同又ハ各別ニテ通常ノ管理行爲ヲ爲スニ止マル

又業務擔當人ハ會社ノ目的中ノ重要ナル行爲ニ付テハ共同ニテノミ之ヲ爲スコトヲ得但異議アル場合ニ於テハ其行爲ヲ中止シ總社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二百二十五條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セサル場合ニ於テ總社員ノ一致ニテ之ヲ選任セサル間ハ社員ノ各自ハ前條ニ規定シタル行爲ヲ其條件ニ從ヒテ爲ス權ヲ有ス

第二百二十六條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ニ選任セラレタル社員ハ正當ノ原因アルキ又ハ其承諾及ヒ總社員ノ同意ヲ得タルキニ非サレハ委任ノ期限内ニ之ヲ解任スルヲ得ス
會社設立以後ノ契約ヲ以テ選任シタル業務擔當人ハ之ヲ選任シタルト同一ノ方法ヲ以テ其承諾ヲ要セスシテ之ヲ解任スルヲ得

第二百二十七條 業務擔當人ヲ選任シタル方法ノ如何ヲ問ハス其中ノ一人又ハ數人ノ死亡、辭任又ハ解任アリテ此等ノ事件ノ爲メニ會社ノ解散セサルキハ總社員ノ過半数ヲ以テ其補闕者ヲ選任ス

第二百二十八條 右ノ外會社定款ノ執行ニ關スル總テノ處分ハ亦社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム
定款ニ反スル行爲又ハ定款外ノ行爲ニ付テハ總社員ノ一致ヲ得ルヲ必要トス

第二百二十九條 第三者カ會社ト業務擔當社員ノ一人トニ對シテ同性質ノ債務ヲ負擔シタルキ其第三者カ二箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル金錢又ハ有價物ヲ此社員ニ辨濟スルニ於テハ其社員ハ會社ノ債權額ト自己ノ債權額トノ割合ニ應スルニ非サレハ自己ノ債權ノ辨濟ニ之ヲ充當スルヲ得ス
但債務者ノ爲シタル充當ヲ變更スルヲ得ス
然レモ債務者カ正當ノ利益ヲクシテ社員ノ債權額ノ全部ニ充當シタルキハ社員ハ其辨濟ノ額内ヨリ右ノ割合ニ應スル

部分ヲ會社ニ分與スル責ニ任ス
債務者又ハ社員カ有効ナル充當ヲ爲ササルキハ財産編第四
百七十二條ニ從ヒテ法律上ノ充當ノ規則ヲ適用ス
第三百十條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス社員ニシテ會社
ノ債務者ヨリ會社ニ對スル債務ノ一分ヲ受取リタル者ハ場
合ノ如何ニ拘ハラズ會社ニ其利益ヲ得セシムルヲ要ス但
自己ノ持分トシテ受取證書ヲ與ヘタルキト雖モ亦同シ
第三百十一條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス各社員ハ其過
失又ハ懈怠ニ因リテ會社ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任
ス
此損害ハ社員カ會社營業ノ他ノ事件ニ付キテ會社ニ得セシ
メタル利益ト相殺スルヲ得ス但其事件ノ互ニ牽連シタル
キハ此限ニ在ラス

第三百十二條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セサルカ爲
メニ業務ヲ取扱フ社員ハ自己ノ業務ニ於ケルト同一ノ注意
ヲ加ヘサルキニ非サレハ其過失ノ責ニ任セス
第三百十三條 各社員ハ會社資本中ニ於テ使用スルヲ得ル
金額ナキキハ會社ノ所屬物ニ關スル必要及ヒ保持ノ費用ヲ
自己ノ權利ノ割合ニ應シテ分擔スル責ニ任ス
第三百十四條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス各社員ハ會社
ヲシテ自己ノ出資外ニ會社ノ爲メ有益ニ立替ヘタル金額ヲ
返還セシメ又ハ會社ノ利益ノ爲メ善意ニテ負擔シタル義務
ヲ認諾セシメ又ハ會社ノ營業ノ爲メ自己ノ財産ニ受ケタル
避クルヲ得サル損害ヲ賠償セシムルヲ得
第三百十五條 會社營業ノ爲メ社員ノ立替ヘタル金額ハ其使
用ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス

之ニ反シテ各社員ハ自己ノ營業ノ爲メ會社資本中ヨリ引出シタル金額ニ付テハ當然會社ニ對シテ其利息ヲ負擔シ尙ホ損害アルキハ賠償ノ責ニ任ス

第三百三十六條 社員ハ會社解散ノ際ニ現在スル資本ニ於ケル各自ノ持分ヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ隨意ニ定ムルヲ得但第三百三十八條ニ掲ケタル二箇ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三百三十七條 社員ハ其一人又ハ數人ノ持分カ利益及ヒ損失ニ於テ同一ナラサルヲ合意スルヲ得然レモ利益ノミヲ豫見シテ右ノ持分ヲ定メタルキハ損失ニ付テモ同一ノ定方ヲ合意シタリトノ推定ヲ受ク如何ナル場合ニ於テモ受ケタル損失ヲ扣除シ會社ノ貸方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ配當ス可キ利益ト看做サス又

右貸方ヲ竭シタル後借方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ損失ト看做サス然レモ會社ノ存立中ニ詐害ヲクシテ既ニ爲シタル利益又ハ損失ノ一分ノ配當ハ之ヲ變更セス

第三百三十八條 會社資本ノ全部又ハ會社ノ得タル利益ノ全部ヲ社員中ノ一人ニ歸ス可キ約款ハ無効ナリ技術又ハ勞力ヲ出資ト爲シタル社員ニ非サル社員ニ全ク損失ノ負擔ヲ免カレシム可キ約款モ亦同シ會社契約ニ右ノ約款ヲ附記シタルキハ其約款ハ契約ヲシテ全ク無効ナラシム又日後ニ右ノ約款ヲ追加シタルキハ其約款ハ契約ノ存立ヲ妨ケスシテ會社ノ清算ハ第四百四十一條ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百三十九條 社員ハ自己ノ選任セシ又ハ選任ス可キ社員又

ハ外人タル一人若クハ數人ノ仲裁人ヲシテ會社解散ノ際各自ノ持分ヲ定メシムルヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ合意スルヲ得

仲裁人ノ爲シタル定方ハ仲裁人カ仲裁ノ適法ノ方式又ハ仲裁契約ヲ以テ授ケラレタル條件ヲ履行セサルカ又ハ明カニ公平ヲ失シタルキニ非サレハ之ヲ攻撃スルヲ得ス

右定方ノ無効ノ請求ハ此ニ因リテ害ヲ受ケタリト主張スル社員ニ在テハ其社員カ定方ノ執行ニ加ハリタルキ又ハ其定方ヲ知りタルヨリ三個月ヲ經過シタルキハ之ヲ爲スヲ得ス

第四百十條 會社契約ヲ以テ持分ノ定方ヲ仲裁人ニ委任ス可キヲ定メタル場合ニ於テ少ナクモ社員ノ過半數カ仲裁人ヲ選任スルヲ一致セサルキハ裁判所ニ於テ其選任ヲ爲ス

選任セラレタル仲裁人カ定方ヲ爲スヲ欲セス又ハ之ヲ爲スヲ能ハサルニ當リ社員カ其改選ニ付キ一致セサルキモ亦同シ

第四百十一條 社員自身ニテ若クハ仲裁人ヲ以テ持分ノ定方ヲ爲サス又ハ仲裁人ノ定方ノ無効ト爲リタルキハ會社資本及ヒ利益又ハ損失ハ社員ノ出資額ノ割合ニ應シテ之ヲ配當ス

社員ノ出資ト爲シタル技術又ハ勞力ノ評價ナキハ裁判所ハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ其出資ノ價額ヲ定ム

技術又ハ勞力ト財産ト出資ト爲シタル社員ハ前項ニ定メタル價額ノ外尙ホ其財産ノ價額ニ從ヒテ計算シタル持分ノ配當ヲ受ク

第四百十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムル

トヲ得又其持分ヲ質入シ又ハ之ヲ讓渡ストヲ得然レモ此等ノ行爲ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルトヲ得ス但會社契約ヲ以テ社員ニ此權利ヲ認許シタルモ此限ニ在ラス此場合ニ於テ會社カ社員ノ讓渡サント欲スル持分ヲ消却スル爲メ先買權ヲ留保シタルモ自己ノ持分ヲ讓渡サントスル社員ハ會社カ其先買權ヲ行フカ拋棄スルカニ付キ之ヲ遲滯ニ付スルトヲ要ス

第四百十三條 業務擔當人カ會社ノ名ヲ以テ又ハ會社ノ營業ノ爲メ有効ニ負擔シタル義務ハ會社カ法人ヲ成セルモ各社員ノ一身上ノ債權者ニ先タテ會社資本ヲ以テ之ヲ擔保ス會社資本ノ不十分ナル場合又ハ訴追債權者ニ其資本ヲ示ササル場合ニ於テハ總社員ハ連帶シテ會社ノ義務ヲ負擔ス會社カ法人ヲ成ササルモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ各社員間ノ決算ハ第三百三十六條乃至第四百十一條ニ規定シタル貸方及ヒ借方ニ於ケル各自ノ持分ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三節 會社ノ解散

第四百十四條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ當然解散ス

- 第一 會社契約ヲ以テ指定シタル期間ノ滿了又ハ解除條件ノ成就
 - 第二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
 - 第三 會社資本ノ全部又ハ半額以上ノ損失
 - 第四 社員ノ一人ノ技術、勞力又ハ收益ヲ以テスル繼續ノ出資ヲ爲スノ不能
 - 第五 社員ノ一人ノ死亡、禁治產、破產又ハ顯然ノ無資力但
- 第四百十七條ノ規定ヲ妨ケス

第四百十五條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ之ヲ解散スルヲ得

第一 如何ナル場合ヲ問ハス社員ノ一致ノ意思

第二 會社ニ明示又ハ默示ノ一定ノ期間ナキ場合ニ於テ
惡意ニ非ス又ハ不都合ノ時期ニ非スシテ解散ノ請求ヲ爲
スルハ社員一人ノ意思

第三 會社ニ一定ノ期間アルキト雖モ社員ノ一人ノ義務
不履行ニ基キタル解除ノ訴又ハ正當ノ理由ニ基キタル
解散ノ請求

第四百十六條 社員ハ會社ノ期間ノ滿了前ニ明示又ハ默示ニ
テ其期間ヲ伸長スルヲ得

默示ノ伸長ハ一定ノ期間ノ滿了後ニ於テ社員ノ一人タモ故
障ヲ爲サスシテ會社營業ノ繼續シタル事實ヨリ生スルヲ
得此場合ニ於テ會社ハ前條第二號ニ從ヒ社員ノ一人ノ意思

ヲ以テ之ヲ解散スルヲ得

第四百十七條 社員ハ第四百十四條第五號ニ掲ケタル原因ニ

由リテ會社ヲ解散セシム且闕員ノ持分ヲ定メ他ノ社員ニテ之

ヲ繼續スルヲ合意スルヲ得

又社員ハ死亡シタル社員ノ相續人又ハ無能力トナリタル社

員ト共ニ會社ヲ繼續スルヲ合意スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ相續人又ハ無能力者ノ合式ノ代人ノ新

ナル承諾ヲ要ス

第四百節 會社ノ清算及ヒ分割

第四百十八條 會社ノ解散シタルキハ社員ノ各自又ハ其承繼

人ヨリ清算ヲ請求スルヲ得

清算ハ分割前ニ之ヲ爲スヲ要ス但社員ノ多數カ全部又ハ

一分ノ分割ヲ先ニスルヲ請求シタルキハ此限ニ在ラス

又會社ノ各債權者ハ清算前ニ分割ヲ爲スヲ付キ故障ヲ申立ツルヲ得

第一百四十九條 清算ハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一 着手シタル業務ノ成就

第二 會社ノ債務ノ辨濟及ヒ其債權ノ取立

第三 各社員ト會社トノ間ノ特別ナル計算

第四 分割ス可キ貸方又ハ負擔ス可キ借方ニ於ケル各社員又ハ其代人ノ持分ノ指定

第一百五十條 會社契約ニ清算人ノ選任及ヒ其權限ニ關スル約

款ナキハ清算ハ或ハ總社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以

テ委任シタル一人若クハ數人ノ社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一

致ヲ以テ選任シタル第三者之ヲ爲ス

社員カ清算人ノ選任ニ付キ一致セサルキハ裁判所ニ於テ之

ヲ選任ス

第一百五十一條 清算人ハ如何ナル場合ヲ問ハス速ニ毀損又ハ

減盡ス可キ物ヲ讓渡スヲ要ス

滿期ト爲リタル債務ノ辨濟ノ爲メ必要ナルキハ此他ノ動産

ヲ讓渡スヲ得

不動産ニ付テハ清算人ハ社員ノ特別ナル委任ヲ受クルニ非

サレハ之ヲ抵當トシ又ハ讓渡スヲ得ス

前項ノ讓渡ハ公賣競落ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

但協議上ノ讓渡ヲ許シタル場合ハ此限ニ在ラス孰レノ場合

ニ於テモ社員ノ過半數ヲ以テ決スルヲ要ス

清算人ハ社員ノ名ヲ以テ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ爲スヲ

得

清算人カ會社ノ債務又ハ債權ニ付キ承諾シタル和解及ヒ仲

裁ハ第三者ト通謀シタル詐欺ノ爲メニ非サレハ之ヲ攻撃スルヲ得ス

第五百二十二條 清算ニ於ケル總計算ハ社員ノ認可ヲ受クルヲ要ス

右ノ計算ヲ認可スルニハ社員ノ過半数ノ議決ヲ以テ足レリトス

此議決ハ總計算ニ付キ之ヲ爲シ又ハ計算ノ或ル部分ニ付キ各別ニ之ヲ爲スヲ得

認可ヲ得サル計算ニシテ仕直スヲ得ヘキモノナルキハ清算人其費用ヲ以テ之ヲ爲ス若シ仕直スヲ得サルキハ清算

人ハ代理ノ規則ニ從ヒ其過失ニ因リテ加ヘタル損害ノ責任ス

清算人ノ受任シタル權限ニ依リ又ハ前條ニ從ヒテ爲シタル

行爲ハ善意ナル第三者ニ對シテ之ヲ取消スヲ得ス

第五百十三條 會社ノ清算後ハ不分ニテ存スル財産ノ分割ハ

社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ之ヲ請求スルヲ得但當事者

カ財産編第三十九條ニ從ヒ不分ニテ存スルヲ會社ノ解散

後ニ合意シタルキハ此限ニ在ラス

第五百十四條 分割部分ノ定方又ハ其配付ニ付キ當事者ノ一

致セサルキハ財産共通ノ分割ノ爲メ別ニ定メタル規則ニ從

フ

第五百十五條 會社資本中ノ物ニシテ分割ニ因リ各社員ニ歸

シタルモノニ關スル其社員ノ權利ハ會社解散ノ日ニ遡リテ

効力ヲ有シ又清算中他ノ社員ヨリ其物ニ付キ第三者ニ授與

シタル權利ハ之ヲ解除ス

第五百十六條 分割者ハ分割ニ因リテ取得ス可キ權利ノ上ニ

受クルヲ有ル可キ妨碍及ヒ追奪ニ付キ其各自ノ部分ニ應シテ相互ニ擔保ヲ爲ス
分割者ノ一人カ無資力ナルキハ其一人ノ負擔シタル賠償ノ部分ハ被擔保人ヲ併セテ他ノ共同分割者ノ間ニ之ヲ分ツ

第七章 射倖契約

總則

第一百五十七條 射倖契約トハ當事者ノ雙方若クハ一方ノ損益ニ付キ其効力カ將來ノ不確定ナル事件ニ繫ル合意ヲ謂フ

第一百五十八條 射倖契約ニハ其性質ニ因ルモノ有リ當事者ノ意思ニ因ルモノ有リ

博戲、賭事、終身年金權其他終身權利ノ設定、陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ性質ニ因ル射倖ノモノナリ
此他成立又ハ効力ヲ停止又ハ解除ノ偶成ノ條件ニ繫ラシム

ル契約ハ當事者ノ意思ニ因ル射倖ノモノナリ
第一百五十九條 陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一節 博戲及ヒ賭事

第一百六十條 博戲ハ博戲者ノ勇氣、力量、巧技ヲ發達ス可キ性質ナル體軀運動ヲ目的トスルニ非サレハ其義務履行ノ爲メ訴權ヲ許サス

賭事ニ基ク訴權ハ右ノ如キ體軀運動ヲ爲ス人ノ爲メ又ハ賭者ノ直接ニ關係スル農工商業ノ進歩ノ爲メニ非サレハ亦之ヲ許サス

右ノ博戲又ハ賭事ニ於テ諾約シタル金額又ハ有價物カ情況ニ照シテ過度ナリト見ユルキハ裁判所ハ之ヲ減少スルヲ得スシテ全ク其請求ヲ棄却スルヲ要ス

第六十一條 前條ノ場合ノ外博戲及ヒ賭事ハ自然義務ヲモ
生セス且其債務ノ追認更改又ハ保證ハ總テ無効ナリ
然レモ右博戲又ハ賭事ニ因ル有能力者ノ任意ノ辨濟ハ之ヲ
取戻スコトヲ許サス但勝者ニ於テ詐欺又ハ欺瞞アリタルハ
此限ニ在ラス

第六十二條 官許ヲ得サル富講ハ訴權ナキ博戲及ヒ賭事ト
同視ス

商品又ハ公ノ證券ノ投機ノ定期賣買ニ付テモ初ヨリ當事者
カ諾約シタル金額又ハ有價物ノ引渡及ヒ辨濟ヲ實行スルニ
意ナク單ニ相場昂低ノ差額ヲ計算スルノミヲ目的トシタル
コトヲ被告ノ證スルモ亦同シ

第六十三條 前二條ノ場合ニ於テ被告ヨリ銷除無効ヲ申
立テサルハ判事ハ職權ヲ以テ其無効ヲ言渡スコトヲ得但契

約又ハ請求ニ於テ博戲富講又ハ相場差額ノ賭事カ債務ノ原
因タルコトヲ明言セシキニ限ル

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第六十四條 終身年金權ハ動産若クハ不動産ナル元本ノ讓
渡ノ報酬又ハ既往若クハ將來ノ勤勞ノ報酬トシテ有償ニテ
之ヲ設定スルコトヲ得

又贈與又ハ遺贈ヲ以テ無償ニテ之ヲ設定スルコトヲ得
又終身年金權ハ有償又ハ無償ニテ讓渡シタル元本ノ上ニ留
存シテ之ヲ設定スルコトヲ得

第六十五條 終身年金權ハ對價物ノ供與者ニ非サル人ノ利
益ノ爲メ之ヲ要約スルコトヲ得

此場合ニ於テハ要約者ト諾約者トノ間ニ在テハ有償契約ノ

規則ニ從ヒ要約者ト得益者トノ間ニ在テハ贈與ノ規則ニ從
フト雖モ贈與ノ方式ニ從フヲ要セス

第六十六條 終身年金權ハ債權者若クハ債務者ノ終身ナ期
シ又ハ第三者ノ終身ナ期シテ之ヲ設定スルヲ得

此末ノ場合ニ於テ契約カ有償ナルキハ其成立ニ付キ第三者
ノ承諾ヲ必要トス然レモ此承諾前ニ辨濟シタル年金ハ之ヲ
取戻スヲ得ス

第六十七條 終身年金權ハ同時又ハ順次ニ數人ノ債權者ノ
終身ナ期シテ之ヲ設定スルヲ得

此場合ニ於テハ財産編第一百條ノ用益權ニ關スル規定ヲ適用
ス

第六十八條 有償ノ終身年金權ノ契約ハ其設定ノ爲メ終身
ナ期セラレタル人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ死亡シタルキハ

當事者雙方其死亡ヲ知ラスト雖モ無効ナリモ年金ノ支給ニ
右ノ人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ罹レル疾病ノ爲メ六十日內

ニ死亡シタルキハ其契約ハ當然之ヲ解除ス
第六十九條 無償ノ終身年金權ハ設定者ニ於テ之ヲ讓渡ス
ヲ得ス且差押フルヲ得サルモノト定ムルヲ得

右約款ハ設定證書ニ記入シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者
ニ對抗スルヲ得ス

養料トシテ無償ニテ設定シタル終身年金權ハ當然讓渡ス
ヲ得ス且差押フルヲ得サルモノナリ

本條ノ規定ハ贈與者ノ利益ノ爲メ贈與財産ノ上ニ留存シタ
ル終身年金權及ヒ支拂時期ノ至リタル年金ニ之ヲ適用セス

第七十條 終身年金權ノ讓渡及ヒ差押ノ禁止ハ其一事ノミ
ヲ要約シタルキト雖モ二事共ニ存立ス

第二款 終身年金權ノ契約ノ効力

第七十一條 債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人ノ生存中ハ其年金權ノ年金ヲ支拂フヲ要シ且買戻ヲ爲スヲ得ス但其買戻ニ付キ特別ノ合意アルキハ此限ニ在ラス

第七十二條 年金ハ毎月又ハ此ヨリ長キ時期ニ於テ其支拂ヲ爲ス可キト雖モ債權者日割ヲ以テ之ヲ取得ス然レモ年金ヲ前拂ス可キハ債務者ハ既ニ支拂時期ノ始マリタル全一期分ヲ負擔ス

第七十三條 債權者ハ解除ノ權利ヲ留保セサルキハ年金支拂ノ欠缺ノ爲メ契約ノ解除ヲ請求スルヲ得ス只其債務者ノ財産中ニ於テ年金ヲ受クルニ足ル可キ部分ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメ其賣却代金ヨリ生スル利息ヲ以テ年金ノ支拂ニ

充ツルヲ得但他ノ債權者ノ競取ヲ拒ムヲ得ス終身年金權ヲ無償ニテ設定シ又ハ贈與若クハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタルキモ亦右ト同一ニ處辨ス

第七十四條 終身年金權ノ債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ支拂ノ時期ニ生存セシヲ債權者ヨリ生存認證書ヲ以テ證セサルキハ其年金ノ支拂ヲ拒ムヲ得此認證書ハ其人ノ現住地ノ受持公證人又ハ身分取扱人之ヲ交付ス

第三款 終身年金權ノ消滅
第七十五條 有償ノ終身年金權ノ債務者カ年金支拂ノ爲メ諾約シタル擔保ヲ供セス又ハ供シタル擔保ヲ減少スルキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ請求スルヲ得但既ニ取得シタル年

金ヲ返還スル責ナシ
贈與又ハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタル終身年金權ノ債權者
モ亦右ト同一ノ權利ヲ有ス
右ノ解除ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ナ期セラレタル人カ確
定判決前ニ死亡シタルキハ之ヲ宣告セス
第七十六條 普通法ニ於テ許シタル銷除及ヒ廢罷ノ原因ハ
終身年金權ニ之ヲ適用ス
終身年金權ハ此他尙ホ更改、合意上ノ免除、混同、時効及ヒ要約
シタル受戻ニ因リテ消滅ス
然レモ終身年金權カ第六十九條及ヒ第七十條ニ從ヒ法
律又ハ人爲ニ依リテ讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サ
ルモノナルキハ其年金權ハ時効ニ罹ラス
如何ナル場合ニ於テモ年金ハ支拂時期後五個年ニシテ時効

ニ 罹ル
第七十七條 終身年金權ハ其設定ノ爲メ終身ナ期セラレタ
ル人ノ死亡ニ因リテ消滅ス但第六十八條ノ規定ヲ妨ケス
然レモ終身ナ期セラレタル人カ債務者ノ責ニ歸ス可キ不正
ノ原因ニ由リテ死亡シタル場合ニ於テ其年金權ヲ有償ニテ
又ハ贈與若クハ遺贈ノ負擔トシテ設定シタリシキハ其契約
又ハ惠與ハ之ヲ解除ス且債務者ハ既ニ支拂ヒタル年金ヲ取
戻サスシテ其取得シタル財産ヲ返還スルコトヲ要ス
右ト同一ノ死亡ノ場合ニ於テ其年金權ヲ直接ニ贈與シ又ハ
遺贈シタリシキハ年金ノ支拂ハ裁判所カ終身ナ期セラレタ
ル人ノ生命ノ繼續期ト推測スル期間之ヲ繼續セシム
第八章 消費貸借及ヒ無期年金權
第一節 消費貸借

第七十八條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方ニ移轉シ他ノ一方カ或ル時期後ニ同數量及ヒ同品質ノ物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ

第七十九條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシキハ裁判所

ハ當事者ノ意思ヲ推測シ且事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

返還ノ場所ノ定マラサリシキハ無利息ノ貸借ニ付テハ貸主

ノ住所又利息附ノ貸借ニ付テハ借主ノ住所ニ於テ其返還ヲ

爲ス

第八十條 不可抗力ニ因リテ借用物ヲ返還スルコト能ハサル

キハ借主ハ其物ノ不可抗力ニ罹リシ日及ヒ場所ノ相場ニ從

ヒテ算定シタル其物ノ價額ヲ負擔ス

第八十一條 貸主ニ屬セサル物ノ貸借ハ無効ナリ其貸借カ

利息附ニシテ且借主カ善意ナリシキハ貸主ハ借主ニ對シテ

擔保ノ責ニ任ス

然レモ此貸借ハ左ノ場合ニ於テハ有効ナリ

第一 借主カ善意ニテ借用物ヲ消費シタルキ

第二 借主カ時効ニ因リ眞所有者ノ回復ノ請求ヲ排却シ

タルキ

第三 眞所有者カ貸借ヲ認諾シタルキ

第八十二條 貸借物ニ借主ノ了知セスシテ貸主ノ了知シタ

ル隠レタル瑕疵アリテ借主爲メニ損害ヲ受ケタルキト雖モ

貸主ハ無利息ノ貸借ニ付テハ其損害ノ責ニ任セス但貸主ニ

詐欺アリ又ハ加害ノ意思アリタルキハ此限ニ在ラス

此貸借カ利息附ナルキハ貸主ノ了知セサリシ隠レタル瑕疵

ト雖モ之ヲ了知スルコト得ヘキキハ其責ニ任ス

此他賣買廢却訴權ニ關スル第九十四條乃至第一百一條ノ規定

ハ之ヲ消費貸借ニ適用スルヲ得
第百八十三條 財産編第四百六十三條乃至第四百六十六條ハ
正貨又ハ強制通用ノ紙幣ニテ爲シタル消費貸借ニ之ヲ適用
ス
然レモ貸主カ財産編第四百六十五條ノ許セル金貨若クハ銀
貨ヲ以テ指定シタル價額ノ辨濟ヲ受ケ又ハ此等ノ正貨ノ一
ヲ以テ辨濟ヲ受クルヲ要約スルニハ同性質ノ正貨又ハ他
ノ正貨若クハ紙幣ヲ以テ對當ノ價額ヲ實際ニ貸付スルヲ
要ス
第百八十四條 主貸借ヲ金銀塊ニテ爲シタルモ借主ハ他ノ商
品ノ貸借ノ如ク同一ノ性質、重量及ヒ品格ノ金銀塊ヲ返還ス
ルヲ要ス
第百八十五條 金錢、日用品又ハ商品ノ借主ハ使用ノ報酬トシ

元本ノ外ニ利息ノ名目ヲ以テ借用物ノ割合ニ應スル金額
又ハ有價物ノ辨濟ヲ約スルヲ得
第百八十六條 利息ハ要約シタルニ非サレハ借主ニ對シテ之
ヲ要求スルヲ得ス
借主ヨリ利息ヲ辨濟ス可キノ合意アリテ其額ノ定ナキモハ
其割合ハ法律上ノ利息ニ從フ
要約セラレサル利息ヲ法律ノ制限内ニテ任意ニ辨濟シタル
借主ハ之ヲ取戻シ又ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當スルヲ得ス
第百八十七條 合意上ノ利息ハ法律上ノ利息ヲ超ユルヲ得
但法律ヲ以テ特ニ定メタル合意上ノ利息ノ制限ヲ超ユルヲ
得ス
法律ノ制限ヲ超エテ顯然ニ利息ヲ定メタルモハ之ヲ法律ノ
制限ニ減却シ此制限ヲ超エテ爲シタル辨濟ハ之ヲ元本ノ辨

濟ニ充當シ又ハ之ヲ取戻スヲ得
債權者カ實際ニ貸付シタル元本ヲ超ユル元本ヲ認メシメ又
ハ其他ノ方法ヲ以テ不正當ノ利息ヲ隱蔽シタルキハ債務者
ハ其不正當ノ利息ヲ辨濟スルヲ要セス若シ辨濟シタルキ
ハ之ヲ取戻スヲ得
第百八十八條 貸主ハ支拂時期ノ至リタル利息ニ付キ異議ヲ
爲サスシテ元本ノ全部又ハ一分ヲ受取りタルキハ其利息ヲ
受取り又ハ之ヲ拋棄シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據ア
ルキハ此限ニ在ラス
第百八十九條 十個年ヲ超ユル期間ヲ以テ利息附ノ貸借ヲ爲
シタルキハ借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ十個年後ハ常
ニ辨濟ヲ爲ス權能ヲ有ス
然レモ年賦金ヲ以テ利息ノ外尙ホ元本ノ幾分ヲ漸次ニ辨濟

ス可キキハ其取越辨濟ヲ爲スヲ得
第百九十條 第百八十六條乃至第百八十九條ノ規定ハ消費貸
借ヨリ生スル義務ヲ除ク外金錢又ハ定量物ノ義務及ヒ合意
上、法律上ノ利息ニ之ヲ適用ス
第二節 無期年金權ノ契約
第百九十一條 貸主ハ元本ノ要求ヲ爲スヲ自ラ禁止シ年金
ノミヲ受取ルヲ要約スルヲ得之ヲ無期年金權ノ設定ト
謂フ
此禁止ハ明示ナルカ又ハ明カニ事情ヨリ生スルヲ要ス
第百九十二條 無期年金ノ債務ヲ負擔スル借主ハ如何ナル反
對ノ合意アルモ常ニ其受取りタル元本ノ辨濟ヲ爲スヲ得
然レモ借主ハ十個年ヲ超エサル或ル時期前ニ辨濟ヲ爲ササ
ルヲ約スルヲ得

右期間ハ常ニ之ヲ更新スルヲ得然レモ亦十個年ヲ超ユル
ヲ得ス若シ之ヲ超ユルキハ十個年ニ短縮ス
辨濟ハ反對ノ合意アラサルキハ全部タルヲ要ス
債務者ハ六個月前ニ辨濟ヲ爲ス意思ヲ債權者ニ豫告スルヲ
要ス但當事者ニ於テ他ノ期間ヲ定メタルキハ此限ニ在ラ
ス
債務者ハ自己ノ定メタル時期ニ於テ辨濟ヲ爲ササルキハ其
損害賠償ノ責ニ任ス然レモ辨濟ノ強要ヲ受クルヲ無シ但更
改アリタルキハ此限ニ在ラス
第九十三條 債務者ハ財産編第四百五條第一號乃至第三號
ニ依リテ尋常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合又
該合式ノ付遲滞ヲ受ケタル後引續キ二個年間年金ノ辨濟ヲ
缺キタル場合ニ於テハ元本辨濟ノ強要ヲ受ク

此末ノ場合ニ於テ裁判所ハ財産編第四百六條ニ從ヒ債務者
ニ恩惠上ノ期限及ヒ分割辨濟ヲ許與スルヲ得
第九十四條 前二條ノ規定ハ不動産讓渡ノ代價若クハ條件
トシテ設定シ又ハ無償ニテ設定シタル無期年金權ニ之ヲ適
用ス
右孰レノ場合ニ於テモ辨濟ハ當事者ノ評定シタル元本ヲ以
テ之ヲ爲シ又元本ノ評定ナキキハ法律上ノ利息ノ割合ニ從
ヒテ計算シタル年金ヲ生ス可キ元本ヲ以テ之ヲ爲ス
日用品ヲ以テ年金ニ充ツルキハ辨濟ハ特別ノ合意アルニ非
サレハ前十個年間ノ其平均代價ニ基キ計算シタル元本ヲ以
テ之ヲ爲ス

第九章 使用貸借
第一節 使用貸借ノ性質

第九十五條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ爲メ之ニ動産又ハ不動産ヲ交付シ明示又ハ默示ニテ定メタル時期ノ後他ノ一方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ

此貸借ハ本來無償ナリ

第九十六條 借主ハ使用ノ物權ヲ取得セス單ニ貸主及ヒ其

相續人ニ對シテ人權ヲ取得ス

借主ノ權利ハ其相續人ニ移轉セス但其相續人カ當事者ノ意思ノ之ニ異ナルヲ證スルキハ此限ニ在ラス又其相續人カ

他ヨリ同種ノ物ノ使用ヲ得ル爲メ裁判所ヨリ返還猶豫ノ期間ヲ受クルヲ妨ケス

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第九十七條 借主ハ借用物ノ性質又ハ合意ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ且貸借期間ニ非サレハ其物ヲ使用スルヲ得ス

借主ハ此他ノ使用又ハ期限後ノ使用ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ勿論又其使用ニ際シ意外ノ事又ハ

不可抗力ニ因リテ生スル滅失又ハ毀損ニ付テモ其責ニ任ス

第九十八條 借主ハ自己ノ物ヲ用ヰテ借用物ノ滅失又ハ毀損ヲ免カレシムルヲ得ヘキキ又ハ自己ノ物ト借用物トカ

同時ニ危險ヲ受クルニ際シ自己ノ物ノミテ救護シタルキモ

亦意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ

毀損ノ責ニ任ス

第九十九條 借主ハ借用物保持ノ通常費用ヲ負擔シ貸主ニ

對シテ其償還ヲ求ムルヲ得ス

第二百條 借主ハ合意セシ時期ニ於テ借用物ヲ返還スルコトヲ要ス其時期前ト雖モ許サレタル使用ヲ終リシキハ亦同シ但

第二百三條 第二項ノ規定ヲ妨ケス
返還ノ時期ヲ定メス且物ノ使用カ繼續ス可キモノナルキハ
裁判所ハ貸主ノ請求ニ因リテ返還ノ爲メ相應ナル時期ヲ定

第二百一條 借主カ借用物ノ第三者ニ屬スルコトヲ了知スルキ
ト雖モ貸主又ハ其代人ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス但第三者カ
其返還ニ付キ合式ニ故障ヲ爲シタルキハ此限ニ在ラス
此末ノ場合ノ外返還ハ貸主又ハ其代人ノ住所ニ於テ之ヲ爲
ス

第二百二條 數人連合シテ同時又ハ交互ニ用ユル爲メ一箇ノ
物ヲ借用シタルキハ各自連帶ニテ前記ノ義務ヲ負擔ス

第二百三條 貸主ハ明示又ハ默示ニテ借主ニ許シタル期限前
ニ貸付物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ス

然レモ其物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セサル要用ノ生シタル
キハ貸主ハ裁判所ニ請求シテ期限前ニ一時又ハ永久ノ返還
ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四條 貸主ハ借主カ借用物保存ノ爲メ支出シタル必要
且急迫ナル費用ヲ之ニ辨償スル責ニ任ス

又貸主ハ貸付物ノ瑕疵ノ爲メニ借主ノ受ケタル損害ニ付テ
ハ第八十二條第一項ノ規定ヲ適用ス

第二百五條 借主ハ前條ニ依リテ自己ノ受ク可キ賠償ヲ得ル
マテ借用物ニ付キ留置權ヲ行フコトヲ得

第十章 寄託及ヒ保管
第一節 寄託

第二百六條 寄託ハ一人カ動産ヲ交付シ他ノ一人カ之ヲ看守

シ要求次第直チニ原物ヲ返還スル契約ナリ

寄託ハ本來無償ナリ

寄託ニハ任意ノモノ有リ急迫ノモノ有リ

第一款 任意寄託

第二百七條 任意ノ寄託ハ寄託者カ寄託ノ時日、場所及ヒ受寄者ヲ自由ニ選擇スルヲ得ル場合ニ於テ成ルモノナリ

第二百八條 寄託ハ所有者ノミナラス尙ホ物ノ看守及ヒ保存ニ付キ利害ノ關係アル人又ハ其代理人之ヲ爲スヲ得

又寄託ハ無能力者ノ法律上ノ代人之ヲ爲スヲ得

第二百九條 寄託ハ契約ヲ爲ス完全ノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ受クルヲ得ス然レモ無能力者ハ猶ホ自己ノ手ニ存スル寄託物ノ返還又ハ

寄託ニ因リテ得タル利益ノ返還ニ付キ民事上其責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

第二百十條 受寄者ハ受寄物ノ看守及ヒ保存ニ付テハ自己ノ財産ニ加フルト同一ノ注意ヲ爲スコヲ要ス

然レモ受寄者カ自ラ求メテ寄託ヲ受ケ又ハ單ニ自己ノ利益ヲ目的トシ要用ニ從ヒ受寄物ヲ使用スルノ許諾ヲ得テ寄託

ヲ受ケタルキハ受寄者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス但此末ノ場合ニ於テ受寄者カ其物ヲ使用シタルキハ第

百九十八條ノ規定ヲ適用ス

第二百十一條 受寄物返還ノ遲滯ニ付セラレタル受寄者ハ普通法ニ從ヒ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル滅失ノ責ニ任ス

第二百十二條 寄託者カ受寄者ニ寄託物ノ性質ヲ隱秘シタルキハ受寄者之ヲ知ラント探求スルヲ得ス又其性質ヲ受寄

者ノミニ知ラシメタル場合ニ於テモ受寄者之ヲ他人ニ漏泄スルヲ得ス若シ之ヲ漏泄シタル爲メ損害アルキハ其賠償ノ責ニ任ス

第二百十三條 受寄者ハ受寄物ヲ使用シ又ハ其果實ヲ消費スルヲ得ス但此カ爲メ寄託者ノ明示又ハ默示ノ許諾アリタルキハ此限ニ在ラス

此許諾ハ寄託ニ使用貸借ノ性質ヲ與フルニ足ラス

第二百十四條 受寄者ハ其收取シタル果實及ヒ產出物ト又之ヲ金錢ニ換ヘサルヲ得サリシキハ其代金ト共ニ原物ヲ返還スルヲ要ス但前條ノ規定ヲ妨ケス

受寄者カ受寄物ニ付キ或ル償金又ハ或ル權利若クハ利益ヲ取得シタルキハ之ヲ寄託者ニ移轉スルヲ要ス

又受寄者カ故意ニテ受寄物ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱匿シタル

キハ遲滞ニ付セラルルヲ無クシテ當然損害賠償ノ責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

第二百十五條 受寄者ノ相續人カ受寄物ナルヲ知ラスシテ

其物ヲ消費シ又ハ之ヲ讓渡シタルキハ其相續人ハ此ニ因リ

テ得タル利益ノ額ニ滿ツルマテ賠償ノ責ニ任ス

右ノ規定ハ遺忘又ハ錯誤ニ因リ自己ノ物トシテ受寄物ヲ處

分シタル受寄者ニ之ヲ適用ス

第二百十六條 寄託物ノ返還ハ寄託者又ハ其法律上若クハ合

意上ノ代人ニ之ヲ爲スヲ要ス

第二百十七條 返還ニ付キ場所ヲ定メサリシキハ受寄者カ受

寄物ヲ移置シタルモ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還ス但寄託

者ヲ詐害スル意思アルキハ此限ニ在ラス

第二百十八條 寄託者ノ要求次第物ヲ返還ス可キ受寄者ノ義

務ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 受寄者カ其物ノ自己ニ屬スルヲテ證スルヲテ得ル

第二 受寄者カ次條ニ從ヒテ留置權ヲ行フヲテ得ルキ

第三 受寄者カ拂渡差押ノ合式ノ告知ヲ受ケタルキ

第四 受寄者カ受寄物ノ盜品ナルヲテ覺知シ且其所有者

ヲ知リタルキ但此場合ニ於テ受寄者ハ所有者ニ其寄託

ヲ受ケタルヲテ通知シ且指定セル相應ノ期間ニ寄託者

ト立會ノ上ニテ其物ヲ要求ス可ク若シ此期間ヲ過クル

モ立會ハサルキハ寄託者ニ返還ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス

ルヲテ要ス

第二百十九條 寄託者ハ寄託物ノ保存ノ爲メ受寄者ノ支出シ
タル必要ノ費用ト其物ノ爲メニ受寄者ノ受ケタル損害トヲ

賠償スルヲテ要ス
右賠償ノ皆濟ヲ受クルマテ受寄者ハ受寄物ノ上ニ留置權ヲ

行フヲテ得
第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二百二十條 寄託者カ火災、洪水、難船、地震又ハ暴動ノ如キ不

測ニシテ且不可抗ノ事變ニ因リ已ムヲ得ス寄託ヲ爲スキハ

之ヲ急迫ノ寄託ト謂フ

急迫ノ寄託ハ諸般ノ方法ニ依リ又ハ情況ヨリ生スル事實ノ

推定ニ依リテ之ヲ證スルヲテ得

此他急迫寄託ハ任意寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十一條 旅店及ヒ下宿屋ノ主人ハ其止宿セシムル旅

人ノ携帶シタル手荷物ノ受託ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト

看做ス

舟車運送人其他水陸運送ノ營業者モ亦其運送ヲ任セラレタル荷物ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス然レモ本條ノ受寄者ハ有償合意ヨリ生スル通常ノ義務ヲ負擔ス

第二節 保管

第二百二十二條 保管トハ數人ノ間ニ於テ爭論ノ目的タル物ヲ第三者ニ寄託スルヲ謂フ

保管ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルヲ得

保管ニハ合意上ノモノ有リ裁判上ノモノ有リ

第二百二十三條 合意上ノ保管ハ其保管ニ付テモ保管人ノ選

定ニ付テモ當事者ノ承諾アルヲ要ス

裁判上ノ保管人ハ當事者カ其選定ニ付キ一致セサルキニ非

サレハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ選定スルヲ得ス

裁判所ハ當事者ノ一人ヲ保管人ニ選任スルヲ得

第二百二十四條 合意上ト裁判上トナ問ハス保管人ハ報酬ヲ

受クルヲ得此場合ニ於テ保管人ハ善良ナル管理者ノ通常

ノ注意ヲ保管物ニ加フルノ責ニ任ス

第二百二十五條 裁判上ノ保管人ハ財産編第一百十九條ニ從ヒ

テ保管物ヲ賃貸スルヲ得然レモ合意上ノ保管人ハ當事者

ノ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ賃貸スルヲ得ス

裁判上又ハ合意上ノ保管人ハ其占有ヲ保持シ又ハ之ヲ回收

スル爲メ占有訴權ヲ行フヲ得

保管人ノ占有ハ爭訟ニ於テ確定ニ勝ヲ得タル當事者ヲ利ス

第二百二十六條 保管ニ付シタル物ハ勝ヲ得タル當事者ニ之

ヲ返還スルヲ要ス

然レモ保管人ハ判決ノ確定前ニ自己ノ責任ヲ免カルル爲メ

當事者ノ許諾又ハ裁判所ノ命令ヲ求ムルヲ得

第二百二十七條 右ノ外合意上及ヒ裁判上ノ保管ハ尋常ノ寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十八條 差押物ニ於ケル裁判上ノ保管及ヒ債務者カ辨濟ニ提供シテ債權者ノ受取ルヲ拒ミタル金錢若クハ有價物ノ供託ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二百二十九條 代理ハ當事者ノ一方カ其名ヲ以テ其利益ノ爲メ或ル事ヲ行フヲ他ノ一方ニ委任スル契約ナリ
代理人カ委任者ノ利益ノ爲メニスルモ自己ノ名ヲ以テ事ヲ行フキハ其契約ハ仲買契約ナリ
仲買契約ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百三十條 代理ハ默示ニテ之ヲ委任シ及ヒ之ヲ受諾スルヲ得

第二百三十一條 代理ハ無償ナリ但反對ノ明示又ハ默示ノ合意アルキハ此限ニ在ラス

第二百三十二條 代理ニハ總理ノモノ有リ部理ノモノ有リ總理代理ハ爲ス可キ行爲ノ限定ナキ代理ニシテ委任者ノ資産ノ管理ノ行爲ノミヲ包含ス

代理カ或ハ管理或ハ處分或ハ義務ニ關シテ一箇又ハ數箇ノ限定セル行爲ヲ目的トスルキハ其代理ハ部理ナリ

第二百三十三條 凡ソ代理ハ總理ナルト部理ナルトヲ問ハス其目的タル行爲ヨリ必然ニ生ス可キ事柄ヲ暗ニ包含ス然レモ元本ヲ諾約スル委任ハ其辨濟ヲ爲ス委任ヲ包含セス元本ヲ要約スル委任ハ其辨濟ヲ受クル委任ヲ包含セス

訴訟ヲ爲ス委任ハ仲裁人ヲ選任シ請求ニ承服シ訴訟ヲ取下
ケ又ハ和解ヲ爲ス委任ヲ包含セス
和解ヲ爲ス委任ハ仲裁人又ハ裁判所ヲシテ爭論ヲ裁決セシ
ムル委任ヲ包含セス
仲裁人ヲ選任スル委任ハ和解ヲ爲シ又ハ裁判所ヲシテ其爭
論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含セス

第二百三十四條 代理ハ無能力者ニモ有効ニ之ヲ委任スルコ
ト得然レモ其代理人ハ委任者ニ對シテハ無能力者ノ制限ア
ル責任ノミヲ負擔ス

第二百三十五條 代理人ハ其管理行爲ノ全部又ハ一分ニ付キ
他人ヲシテ自己ニ代ハラシムルコトヲ得但此ヲ明示ニテ禁止
セサルキ又ハ事件ノ性質ニ因リテ專ラ代理人ノミニ委任シ
タリト看做ス可カラサルキニ限ル此場合ニ於テ代理人ハ自

己ノ管理ニ於ケル如ク其復代人ノ管理ノ責任ニ任ス
委任者カ復代人ヲ指定シタルキハ代理人ハ其指定ニ從フコ
ト能ハサル場合ニ於テモ他人ヲ選任スルコトヲ得ス代理人カ其
指定ニ從ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ代理人ハ其復代人
ノ無能又ハ不誠實ニ付キ委任者ニ之ヲ告知スルコトヲ怠リ又
ハ復代人ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責任ニ任セス
委任者ノ禁止シタルニ拘ハラヌ復代人ヲ選任シ又ハ其許諾
セサル人ヲ選任シタル場合ニ於テハ代理人ハ意外ノ事又ハ
不可抗力ニ因リテ生スル損害ニ付テモ其責任ニ任ス但此復代
人ノ選任ヲ爲ササレハ其損害ノ生セサル可カリシキニ限ル
第二百三十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ委任者
ハ復代人ニ對シ其管理ニ關スル訴權ヲ直接ニ行フコトヲ得又
之ニ對シ直接ニ責任ヲ負擔ス

同條第三項ノ場合ニ於テ委任者ハ直接訴權ト代理人ノ名ヲ以テスル間接訴權トノ間ニ選擇權ヲ有ス然レモ直接訴權ヲ行ヒタルキハ其復代人ノ選任ヲ認諾シタルモノト看做ス

第二節 代理人ノ義務

第二百三十七條 代理ノ終了セサル間ハ代理人ハ委任ノ本旨ニ從ヒ且明示ナキモ自己ノ了知シタル委任者ノ意思ヲ斟酌シテ委任事件ヲ成就スル責ニ任ス此ニ違フキハ損害賠償ヲ負擔ス

全部ノ履行ヲ爲スヲ得サルキハ委任者ニ有益ナルニ非サレハ代理人ハ一分ノ履行ヲ爲ス責ナク且之ヲ爲スヲ得ス

第二百三十八條 指定ノ代價ニテ物ヲ買入ルル委任ヲ受ケタル代理人カ其指定ヲ超ユル代價ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ得ル能ハサリシキハ代理人ハ其超過額ヲ拋棄シテ買入ノ認

諾ヲ委任者ニ要求スルヲ得又委任者ハ代理人ノ辨濟シタル代價ヲ以テ物ノ引渡ヲ要求スルヲ得

物ヲ賣却スル委任ヲ受ケタル場合ニ於テ代理人カ指定ノ代價以下ニテ之ヲ賣却シタルキハ代理人ハ代價ノ差額ヲ補足シテ其賣却ヲ認諾セシムルヲ得

第二百三十九條 代理人ハ委任事件ヲ成就セシムルヲ付テハ善良ナル管理者タルノ注意ヲ爲ス責ニ任ス然レモ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ過失ハ較ヤ寛大ニ之ヲ査定ス

第一 代理人カ無償ニテ代理ヲ爲スキ

第二 代理人カ自ラ求メテ代理ヲ爲シタルニ非サルキ

第三 委任者カ代理人ノ不熟練ナルヲ了知シ又ハ之ヲ推量シタルキ

第四百一十條 代理人カ管理ノ或ル行爲ニ付キ委任者ヲシテ其豫
期セサリシ利益ヲ得セシメタルキ
第二百四十條 代理人ハ代理ノ終了シタルキハ證據書類ヲ添
ヘテ其計算ヲ爲ス責ニ任ス其終了前ト雖モ委任者ノ之ヲ求
メタルキハ亦同シ
第四百一十一條 代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ又ハ管理ニ關シ
自己ノ名ヲ以テ受取リタル金額若クハ有價物ヲ委任者ニ返
還スルヲ要ス又委任者カ正當ニ受取ルヲ得ス又ハ代理
人ニ受取ルヲ託セサリシ金額若クハ有價物ト雖モ之ヲ受
取リタルキハ亦同シ然レモ次節ニ從ヒテ委任者ヨリ受取ル
可キ金額ヲ扣除ス
代理人ハ自己ノ收取スルヲ怠リ又ハ自己ノ過失ニ因リテ
減失セシメタル金額若クハ有價物ノ價額ヲ前數條ニ依リテ

負擔スル損害賠償ト共ニ前項ノ返還中ニ附加ス
第二百四十二條 委任者ノ許諾ヲ受ケスシテ其元本ヲ自己ノ
利益ニ用井タル代理人ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ負擔ス
其他損害アルキハ賠償ノ責ニ任ス
計算殘餘ノ金額ニ付テハ代理人ハ其遲滞ニ付セラレタル日
ヨリ利息ヲ負擔ス
第二百四十三條 一箇ノ事件ニ付キ數人ノ代理人アルキハ唯
一ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルト各別ノ證書ヲ以テ之ヲ委
任シタルトヲ問ハス各代理人ハ自己ノ過失ニ付テノミ其責
ニ任シ連帶ヲ要約シタルキ又ハ過失ノ連合ナルキニ非サレ
ハ其間ニ連帶ヲ成サス
第二百四十四條 代理人カ委任者ノ爲メ委任者ノ名ヲ以テ第
三者ト爲シタル行爲ノ履行ニ付テハ代理人ハ其第三者ニ對

シテ責ニ任セス但代理人カ明示ニテ履行ノ責ニ任シ又ハ第
三者ニ對シテ己レノ有セサル權限ヲ有スルモノノ如ク示シ
タルキハ此限ニ在ラス

第三節 委任者ノ義務

第二百四十五條 委任者ハ代理人ニ對シテ左ノ義務ヲ負擔ス
第一 代理人カ代理ノ履行ノ爲メ支出シタル立替金又ハ
正當ノ費用ノ辨償及ヒ其支出シタル日以來ノ法律上ノ
利息ノ辨償

第二 合意シタル謝金ノ辨償

第三 代理人カ其管理ニ因リ又ハ其管理ヲ爲スニ際シ自
己ノ過失ニ非スシテ受ケタル損害ノ賠償但豫見シタル
損害ニシテ其全部又ハ一分ニ付キ特ニ謝金ヲ諾約スル
理由ト爲リタルモノハ此限ニ在ラス

第四 代理人カ其管理ニ因リテ負擔シタル一身上ノ義務
ノ解脱又ハ其賠償

第二百四十六條 代理人ハ前條ニ掲ケタル支出ヲ爲スヲ約
セサルキハ其責ニ任セス然レモ委任者ヨリ必要ナル資金ヲ
供スルヲ拒絶シ又ハ遅延セシメテ證據ナキニ於テハ支出
ヲ約セサル爲メ代理ノ履行ヲ遅延スルヲ得ス

第二百四十七條 謝金ハ代理ノ全部履行アリタル後ニ非サレ
ハ委任者之ヲ負擔セス但一分ツツ辨済ス可キヲ諾約シタ
ルキハ此限ニ在ラス

代理人ノ責ニ歸セサル原因ニ由リテ全部ノ履行ニ妨碍アリ
タルキハ謝金ハ其履行ノ割合ニ應シテ委任者之ヲ負擔ス
第二百四十八條 委任者カ義務ヲ辨済スルニ至ルマテ代理人
ハ代理ニ依リテ所持シ且債權者ト爲レル原因タル物ノ上ニ

留置權ヲ有ス

第二百四十九條 數人カ唯一ノ證書又ハ各別ノ證書ヲ以テ共同事件ノ爲メ代理ヲ委任シタルルキハ委任者ノ各自ハ連帶シテ前記ノ義務ヲ負擔ス但反對ノ要約アルルキハ此限ニ在ラス

第二百五十條 委任者ハ代理人カ委任ニ從ヒ委任者ノ名ニテ

約束セシ第三者ニ對シテ負擔シタル義務ノ責ニ任ス

委任者ハ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ權限外ニ爲シタル事柄

ニ付テモ亦其責ニ任ス

第一 委任者カ明示又默示ニテ代理人ノ行爲ヲ認諾シタルルキ

第二 委任者カ代理人ノ行爲ニ因リテ利益ヲ得タルルキ但

其利益ノ限度ニ從フ

第三 第三者カ善意ニシテ且代理人ニ權限アリト信スル

人正當ノ理由ヲ有シタルルキ

第四節 代理ノ終了

第二百五十一條 代理ノ履行又ハ其履行ノ不能及ヒ代理ニ付

シタル期限ノ到來又ハ條件ノ成就ノ外尙ホ代理ハ左ノ諸件

ニ因リテ終了ス

第一 委任者ノ爲シタル廢罷

第二 代理人ノ爲シタル拋棄

第三 委任者又ハ代理人ノ死亡、破産、無資力若クハ禁治産

第四 委任者カ代理ヲ委任シ又ハ代理人カ之ヲ受諾セシ

原因タル資格ノ絶止

第二百五十二條 委任者ノミノ利益ノ爲メニ委任セシ代理ノ

廢罷ハ謝金ヲ諾約シタルルキト雖モ委任者ハ何時ニテモ隨意

ニ之ヲ爲ス可ク得

第二百五十三條 廢罷ハ將來ニ向ヒテノミ有効ナリ且其廢罷
前ニ有効ニ爲シタル事柄ヲ害セス
第二百五十四條 數人ノ委任者アルキハ其中ノ一人ノ爲シタ
ル廢罷ハ他ノ人ノ代理ヲ終了セシメス
第二百五十五條 代理ノ廢罷ハ默示タルヲ得默示ノ廢罷ハ
同一ノ事件ニ付キ新代理人ノ選任又ハ委任者ノ管理ノ回復
其他ノ事情ヨリ生スルモノナリ
第二百五十六條 代理ノ拋棄カ委任者ニ損害ヲ生セシメタル
キハ代理人ハ其賠償ノ責ニ任ス但正當又ハ已ムヲ得サル原
因ニ基キタルキハ此限ニ在ラス
代理ノ拋棄モ亦默示ニテ之ヲ爲スヲ得
第二百五十七條 代理終了ノ原因ハ委任者ヨリ出テタルト代
理人ヨリ出テタルト問ハス當事者カ其告知ヲ受ケタルカ

又ハ確實ニ之ヲ知りタルキニ非サレハ當事者互ニ之ヲ以テ
對抗スルヲ得ス
當事者ノ一方ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人ヨリ告知
スルヲ要ス
第二百五十八條 委任者カ代理人ヨリ委任狀ヲ取戻シタルキ
ト雖モ懈怠ナシニ代理ノ終了ヲ知ラスシテ代理人ト約束シ
タル第三者ハ代理終了ノ原因ヲ以テ對抗スルヲ得ス
第二百五十九條 代理カ上ニ掲ケタル原因ノ一ニ由リテ終了
セシキハ代理人又ハ其相續人ハ委任者又ハ其相續人カ既ニ
生シタル利益ヲ自ラ處理シ又ハ新代理人ヲシテ之ヲ處理セ
シムルヲ得ルニ至ルマテ其利益ヲ處理スルヲ要ス
此規定ハ代理ノ終了カ代理人ノ拋棄ニ因レルキハ委任者ノ
廢罷ニ因レルキヨリモ一層嚴ニ之ヲ適用ス

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約

第一節 雇傭契約

第二百六十條 使用人、番頭、手代、僕婢、職工其他ノ雇傭人ハ年月又ハ日ヲ以テ定メタル給料又ハ賃銀ヲ受ケテ勞務ニ服スルヲ得

雇傭ハ地方ノ慣習ニ因リ定マリタル時期ニ於テ又ハ確定ノ慣習ナキハ何時ニテモ一方ヨリ豫メ解約申入ヲ爲スニ因リテ終了ス但其解約申入ハ不利ノ時期ニ於テ之ヲ爲サス又惡意ニ出テサルヲ要ス

第二百六十一條 雇傭ノ期間ハ使用人、番頭、手代ニ付テハ五個年僕婢、職工其他ノ雇傭人ニ付テハ一个年ヲ超ユルヲ得ス但習業契約ニ關スル下ノ規定ヲ妨ケス
此ヨリ長キ時期ヲ約シタルニ於テハ當事者ノ一方ノ隨意ニ

テ右ノ時期ニ之ヲ短縮ス但更新ヲ爲ス權能ヲ妨ケス

第二百六十二條 雇傭ハ時期ヲ定メタルト雖モ當事者ノ一方ノ義務不履行ニ因ル解除ノ爲メ又ハ一方ヨリ出テタル正當ニシテ且已ムヲ得サル原因ノ爲メ其定期前ニ於テ終了ス如何ナル場合ニ於テモ主人ノ一身ニ關スル雇傭ハ其死亡ノ爲メ當然終了ス

第二百六十三條 雇傭ヲ終了セシムル正當ノ原因カ主人ヨリ出テ且地方ノ慣習ニ從ヒ雇傭ノ新契約ヲ爲スニ困難ナル季節ニ生シタルトハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ定ムル償金ヲ雇傭人ニ付與セシムルヲ得

第二百六十四條 如何ナル場合ニ於テモ雇傭人ノ死亡ハ契約ヲ終了セシム但其相續人ハ給料又ハ賃銀ノ取越過額ヲ返還ス

第二百六十五條 前記ノ規定ハ角力、俳優、音曲師其他ノ藝人ト
座元興行者トノ間ニ取結ヒタル雇傭契約ニ之ヲ適用ス
第二百六十六條 醫師、辯護士及ヒ學藝教師ハ雇傭人ト爲ラス
此等ノ者ハ其患者、訴訟人又ハ生徒ニ諾約シタル世話ヲ與ヘ
又ハ與ヘ始メタル世話ヲ繼續スルコトニ付キ法定ノ義務ナシ
又患者、訴訟人又ハ生徒ハ此等ノ者ノ世話ヲ求メテ諾約ヲ得
タル後其世話ヲ受クル責ニ任セス
然レモ實際世話ヲ與ヘタルキハ相互ノ分限ト慣習及ヒ合意
トヲ酌量シテ其謝金又ハ報酬ヲ裁判上ニテ要求スルコトヲ得
此等ノ者ノ世話ヲ受クルコトヲ諾約シタル後正當ノ原因ナク
シテ之ヲ受クルコトヲ拒絕シタル者ハ其拒絕ヨリ此等ノ者ニ
金錢上ノ損害ヲ生セシメタルキハ其賠償ノ責ニ任ス
之ニ反シテ世話ヲ與フルコトヲ諾約シタル後正當ノ原因ナク

シテ之ヲ拒絕シタル者ハ因リテ加ヘタル損害ヲ賠償スル責
ニ任ス
第二節 習業契約
第二百六十七條 工業人、工匠又ハ商人ハ習業契約ヲ以テ習業
者ニ自己ノ職業上ノ知識ト實驗トヲ傳授シ習業者ハ其人ノ
勞務ニ助力スルヲ約スルコトヲ得
未成年者ハ其父、後見人其他自己ニ對シテ權力ヲ有スル人ノ
輔佐又ハ名代ニ依ルニ非サレハ習業契約ヲ取結フコトヲ得ス
第二百六十八條 合式ニ輔佐ヲ受クル未成年者又ハ其代人ノ
取結ヒタル習業契約ハ其未成年ノ時期ヲ超ユルコトヲ得ス但
習業者カ成年ニ達シタル後其契約ヲ更新シ又ハ之ヲ伸長ス
ルコトヲ妨ケス
第二百六十九條 習業契約ハ當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣

狹ヲ定ム

習業契約ノ不備ハ師匠又ハ親方ノ其職業ヲ行フ地方ノ慣習ニ從ヒテ之ヲ補完スルヲ得

第二百七十條 師匠又ハ親方ハ習業者ニ衣食及ヒ職業ノ器具

ヲ與ヘ且日常ノ使用ヲ足ラシムルヲ要ス但反對ノ合意ナ

ク且地方ノ慣習ノ此ニ異ナラサルキニ限ル

師匠又ハ親方ハ習業者ニ其習業契約ノ目的タル職業ヲ學ブ

ヲ得セシムル爲メ必要ナル時間ヲ與ヘ世話ヲ爲シ及ヒ諸

般ノ便利ヲ圖ルヲ要ス

未成年ノ習業者カ未ダ算筆ヲ知ラサルキハ師匠又ハ親方ハ

何等ノ反對ノ合意アルモ習業者ニ算筆修習ノ爲メ休憩時間

外ニ於テ毎日少ナクモ一時間ヲ與フルヲ要ス

第二百七十一條 習業者ハ其習ハント欲スル職業ニ關シ日日

ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供スルヲ要ス其金額
第二百七十二條 習業者カ自己又ハ其親屬ノ疾病其他不可抗

ノ原因ニ由リテ一个月以上引續キ勞務ヲ供スルコト能ハサル

キハ習業者ハ其成年ニ達シタル後ト雖モ習業契約ノ期限滿

了後ニ於テ前契約ニ同シキ相互ノ條件ヲ以テ休業シタル時

間ヲ補足スルコトヲ要ス

第二百七十三條 習業契約ハ左ノ諸件ニ因リテ當然終了ス

第一 師匠、親方又ハ習業者ノ死亡

第二 師匠、親方又ハ習業者ノ陸海軍ノ現役

第三 師匠、親方又ハ習業者ノ重罪又ハ三个月ヲ超ユル禁

錮ノ處刑

第四 合意又ハ法律ヲ以テ定メタル期間ノ滿了

第二百七十四條 左ノ原因アルキハ解除ノ利益ヲ得ル一方ノ

當事者ノ請求ニ因リ裁判所ハ契約ノ解除ヲ宣告スルヲ得
第一 相互ノ義務ノ不履行但不可抗ノ原因ニ由ルキモ亦
同シ

第二 習業者ニ對スル師匠又ハ親方ノ苛酷ナル取扱

第三 習業者ノ平常ノ不品行

第四 前條ニ掲ケタル場合ノ外師匠親方又ハ習業者ノ犯
罪

第五 契約ヲ履行ス可キ土地外ニ師匠又ハ親方ノ轉居

本條ニ依リテ解除ノ宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方ハ自己ニ

過失アルキハ他ノ一方ニ對シテ尙ホ其損害ヲ賠償ス可キノ

言渡ヲ受ク前條ニ掲ケタル處刑言渡ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二百七十五條 工技又ハ勞力ヲ以テスル或ル仕事ヲ其全部

第二百七十六條 前條ニ掲ケタル二箇ノ場合ニ於テ物ノ全部

又ハ一分ニ付キ豫定代價ニテ爲スノ合意ハ注文者ヨリ主タ

ル材料ヲ供スルキハ仕事ノ請負ナリ若シ請負人ヨリ主タル

材料ト仕事トヲ供スルキハ仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買ナ

リ

第二百七十六條 前條ニ掲ケタル二箇ノ場合ニ於テ物ノ全部

又ハ一分ニ付キ既ニ仕事ヲ爲シタル後ニ意外ノ事又ハ不可

抗力ニ因リテ其物ノ滅失セシキハ材料ノ滅失ハ其材料ノ屬

スル者之ヲ負擔シ請負人ハ仕事賃ヲ損失ス

當事者ノ一方カ其所爲ニ因リテ滅失ヲ來タシタルカ又ハ引

渡若クハ受取ニ付キ遲滞ニ在ルキハ其一方ノミ材料及ヒ仕

事賃ニ付キ其滅失ヲ負擔ス但損害アルキハ其賠償ノ責ニ任

ス

請負人ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ一分ノ滅失又ハ單一

ナル毀損カ物ニ其價額ノ半以上ヲ失ハシムルキハ之ヲ全部ノ減失ト同視ス又其減價カ半以下ニ在ルキハ財産編第四百十六條、第四百十九條第三項及ヒ第四百二十條ノ規定ヲ適用ス

注文者ヨリ材料ヲ供シタルキハ注文者ハ減失又ハ毀損ノ後存在スル材料ノ部分ノ増價シタル限度ニ從ヒテ仕事賃ヲ辨濟スル責ニ任ス

第二百七十七條 注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テハ仕事完成ノ後ニ非サレハ引渡ヲ實行セサル可キト雖モ一分宛仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ルヲ合意スルヲ得

此場合ニ於テ注文者カ既成ノ仕事ヲ調査シテ受取リタルキ又ハ之ヲ調査スルノ遲滯ニ在ルキハ請負人ハ既成ノ仕事ニ付キ其危險ノ責ヲ免カル

仕事中ニ注文者ヨリ前金又ハ内金ヲ供シタルモ此ヲ以テ既成ノ仕事ヲ受取リタリト看做サス然レモ物カ注文者ノ明白ナル受取又ハ其付遲滯ノ以前ニ減失シタルキハ注文者ハ既成ノ仕事ヲ超ユル部分ニ非サレハ前金又ハ内金ヲ取戻スヲ得

第二百七十八條 注文者カ異議ヲ留メスシテ工作物ヲ受取リタルモ後日其物ノ使用ニ不適當ナル隠レタル瑕疵ヲ發見スルキハ注文者ハ其受取ヲ取消シテ代價ノ減殺又ハ其一分ノ返還ヲ請求スル權利ヲ失ハス

此權利ニ基キタル訴權ハ注文者ニ屬スル動産又ハ不動産ノ上ニ施シタル仕事ニ付テハ全部ノ工作物ヲ受取リタル後ノ

三個月ニテ消滅ス
職工ヨリ材料ヲ供シタル製作物ニ付テハ第九十九條ノ規定

ヲ適用ス

第二百七十九條 建物、牆壁其他地上ニ於ケル大ナル工作物ヲ請負ニテ築造シタルキハ請負人ハ築造ノ瑕疵又ハ地盤ノ瑕疵ヨリ生シタル其工作物ノ全部若クハ一分ノ滅失又ハ重大ナル損壞ノ責ニ任ス但請負人カ他人ノ土地ニ築造シタルト自己ノ土地ニ築造シタルト材料ヲ供シタルト否トヲ區別セ

ス 右責任ハ左ノ時期ノ間繼續ス

第一 牆壁其他土工ニ付テハ其受取後二今年

第二 木造ノ建物ニ付テハ三今年

第三 石又ハ煉瓦ノ建物及ヒ土藏ニ付テハ十今年

第二百八十條 右ノ責任ニ基キタル賠償訴權ハ左ノ時期ヲ以テ時効ニ罹ル

第一 物ノ全部ノ滅失ノ場合ニ於テハ其滅失ノ時ヨリ一今年

第二 物ノ一分ノ滅失又ハ重大ノ毀損ノ場合ニ於テハ請負人ノ責ニ任ス可キ期間ノ滿了ノ時ヨリ六個月

第二百八十一條 經畫ノ變更ヨリ代價ノ増減ヲ生ス可キモ書面ヲ以テ之ヲ定メサルキハ其變更ヲ口實トシテ請負人ハ原代價ノ増加ヲ請求シ注文者ハ其減少ヲ請求スルヲ得ス請負中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ爲シ又ハ請負中ノ區分アル建築ヲ廢セシキハ此規定ヲ適用セス此場合ニ於テ當事者ノ間ニ一致ヲ得サルキハ裁判所原代價ノ増減ヲ定ム 請負人ハ經畫又ハ其變更カ注文者ノ指圖ニ出テタルヲ口實トシテ第二百七十九條ニ定メタル責任ヲ免カルルヲ得

ス但請負人カ書面ヲ以テ此責任ヲ免カラルルコトヲ得タルハ
此限ニ在ラス
第二百八十二條 請負人カ仕事ノミヲ供スルト材料ヲ併セ供
スルトヲ問ハス注文者ハ常ニ自己ノ意思ノミヲ以テ契約ヲ
解除スルコトヲ得然レモ注文者ハ請負人ノ既成ノ仕事ノ賃銀
及ヒ準備ノ材料ニ受ケタル損失其他ノ損害ヲ賠償シ且其契
約ニ因リテ得ヘキ正當ナル利益ノ全部ヲ辨濟スル義務ヲ負
擔ス
第二百八十三條 他人ノ材料ヲ以テ仕事ノ全部ニ供シタルト
一分ニ供シタルト又其仕事ヲ實行シタルト契約ヲ解除シタ
ルトヲ問ハス請負人ハ仕事ノ爲メ又ハ解除ノ賠償ノ爲メ自
己ノ受ク可キ金額ノ皆濟ニ至ルマテ其材料ヲ留置スルコトヲ
得但此留置權ハ動産物ノミニ之ヲ適用ス其

第二百八十四條 注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ主眼トシテ契
約ヲ取結ヒタルハ其契約ハ請負人ノ死亡又ハ其仕事ノ不
能ニ因リテ之ヲ解除スルコトヲ得
右二箇ノ場合ニ於テ注文者ハ自己ノ期望セシ目途ニ付キ利
シタル仕事又ハ材料ノ價額ノミヲ請負人又ハ其相續人ニ辨
濟スル責ニ任ス
第二百八十五條 仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト請負人ト
ノ關係ニ付テハ前記ノ規定ニ從フ
請負人カ下請負人ニ對シ負擔スル金額ヲ辨濟セサルハ下
請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ注文者ニ對シ其注文者ノ猶
ホ請負人ニ辨濟ス可キ債務ノ限度ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得
職工モ亦己レヲ雇ヒタル者カ賃銀ヲ辨濟セサルハ注文者
ニ對シテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

